

薬剤師に求められる問題解決能力や 実践力を高めるための教育方略に関する研究



薬学部・薬学教育推進センター 学習推進ユニット 講師

岩澤 晴代 IWASAWA, Haruyo

教育

板橋キャンパス

キーワード：アクティブラーニング、医療コミュニケーション、薬学教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

現在、多くの大学において、学生の基礎学力の低下、学習意欲の低下、個人の自己学習力の低下や、大学の学習方略の固定観念などの教育上の課題が存在すると考えられる。その中で問題発見・問題解決力を養う方略としては、医学部をはじめ医療系学部において問題基盤型学習（Problem-Based Learning: PBL）などのアクティブラーニングが導入され、その学習効果の高さから薬学部でも様々なアクティブラーニングの導入の試みが行われている。しかし、PBLをはじめとするアクティブラーニングは少人数グループでの討論を中心とするため、学生数が多くなるほど担当する教員数も必要となり、当学部のような大人数での授業への導入には解決しなければならない課題が多くある。そこで、アクティブラーニングを大人数でも効果的に授業に導入するための課題と解決策を、検討している。

<研究テーマ>

- ・生物、薬理・薬物治療、実務薬学横断 PBL・TBL 複合型分野横断統合演習の学習効果
- ・SP 参加型模擬医療面接の実施による医療コミュニケーションスキルの向上について



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

地域に貢献できる薬剤師の育成につながる。また学生数に関わらず様々なアクティブラーニングの導入が可能となれば、現在抱えている教育上の課題の解決に貢献できると考えられる。アクティブラーニングでITを活用することによって解決できる課題もあると考えられるため、新しい教育システムの開発にも繋がる可能性がある。

「なぜなぜカルタ」遊び方の開発・普及



法学部・政治学科 教授

若山 昇

WAKAYAMA, Noboru

教育

八王子キャンパス

キーワード：「なぜなぜカルタ」、クリティカルシンキング、ゲーム

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要



「日常のなぜ？」の例



なぜなぜカルタ(絵札)

「なぜなぜカルタ」とは

クリティカルシンキング（論理的な思考）に不可欠なことは、まず疑問を持つことである。なぜなら、疑問も何もないと、理解も前進もないからだ。些細なことでも「日常のなぜ？」が、極めて重要となる。

「なぜなぜカルタ」は、疑問を持つ楽しさ、仮説を立てる楽しさを、仲間や家族で分かち合うことができる。

「なぜなぜカルタ」の遊び方

1. 「いろはカルタ」のように遊んでみよう
2. あ行で「日常のなぜ？」を探してみよう
3. 答えの仮説を立ててみよう
4. 答えの仮説を確認してみよう
5. 「なぜなぜカルタ」を自分で作ってみよう

未就学児から大人まで、いろいろな方法で楽しめる。



なぜなぜカルタ(字札)



なぜなぜカルタ(裏面)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「なぜなぜカルタ」は効果があり、学生と遊んでみると結構楽しいし、学生に好評である。今後さらなる遊び方を開発し、いかに普及すべきかを、ぜひ一緒に検討したい。

現在は厚紙で手作りをしているが、「なぜなぜカルタ」自体や、「なぜなぜカルタ」を作成する演習教材をスマホアプリ化してみたい。なお、すでに商標登録されており、その利用には何ら問題がない。

知的財産・論文・学会発表など

若山昇：日常のなぜ、「誰でもわかるクリティカルシンキングーそれって、ホント？」北樹出版：17-20, 2021.

若山昇：「なぜなぜカルタ」「Naze Naze Card Game」商標登録第 5730584 号, 2015.

デジタル時代における書写書道教育



文学部・日本文化学科 准教授 / 帝京大学書道研究所 所長

福井 淳哉 FUKUI, Junya

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/calligraphy>

教育

八王子キャンパス

キーワード：書写書道教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

学校教育における国語科は、全教科の基盤となる言語的な要素の習得のためにあり、その習得の手段として物語や詩を読むという文学の学習が設けられています。しかし、現代社会の子供たちは、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄化しており、日常から手書きが徐々に離れ、子供たちは、知覚した情報、文章の内容を的確に捉えたり、読み解くことが少なくなっているのです。それゆえに、話す、読む、書く、の基盤である手書き文字、つまり書写の果たす役割は、より一層高まったといえるでしょう。時代の変化の中で未来を切り拓いていくための力の基盤は、書写のような、学校教育における不易から育まれると信じております。

今後の学習指導要領の改訂では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱を挙げ、「書写」は「知識及び技能」の「(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」に位置づけられました。これにより、書写の言語活動を支える基礎的役割が、より明確になったといえます。

帝京大学書道研究所では、こうした学習指導要領に対応した書写書道教育の方法、教材開発等を推進してまいります。



帝京大学幼稚園における幼児書字教育への取り組み

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現代社会では、文字が「書く」ものから「入力する」ものになりつつあります。しかし、IoT 技術の進歩や AI の発展により社会が大きく変化しようとも、人間が自らの手で文字を書く文化はなくなる应该不会でしょう。そして、そうした時代の中でこそ、書道をはじめとするデジタルには変えられないもの、言語では伝えられない技術や知識は尊いものとなります。現在、学習指導要領の改訂により小学校低学年の書写に「水書」という新要素が加わるなど、次の時代へ向けた書写書道教育がスタートしています。そうした中、帝京大学書道研究所では、帝京大学幼稚園での取り組みを活かし、これからの時代へ向けた、文字教育、特に幼児書字教育に関連する新たな教材制作や筆記具・教具の開発に着手しており、関連する文房具・玩具メーカーとの連携が可能であると考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- 1 文部科学省検定教科書書I・II 教育図書 2021～2022
- 2 書I・II指導資料(教師用指導書)教育図書 2021～2022
- 3 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説芸術(音楽美術工芸書道)編文部科学省 2019

アメリカの対ラテンアメリカ教育政策



外国語学部・外国語学科 教授

江原 裕美 EHARA, Hiromi

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9cc589ae2c9ca311.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：ラテンアメリカ、教育、開発、アメリカ

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

ラテンアメリカでは、経済発展の度合いに比して学校教育制度の普遍化に問題を抱えている。それは植民地時代の負の遺産として受け継がれ、今世紀に至っても経済発展の上で大きな足かせとなってきたと考えられる。アメリカはラテンアメリカに対し、1930年代から教育分野での交流を開始したが、それは第二次世界大戦を通じて技術援助という形態をとるに至る。戦後はポイント・フォー計画を皮切りに、開発援助として発展した。1960年代にはケネディ大統領による「進歩のための同盟」によってラテンアメリカの総合的な開発を目指す枠組みが作られた。本研究はこうした足跡をたどることで、ラテンアメリカが抱える開発問題、特に教育問題を考察する。写真は、左が「進歩のための同盟」の援助によるボリビアでの学校授業風景、右が同じくブラジルでの学校給食風景である。



教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ラテンアメリカの学校制度を中心とした教育政策の研究を基盤としつつ、ラテンアメリカとアメリカの関係性を教育や国際協力の面から探究している。ラテンアメリカと日本、またアメリカとラテンアメリカに関する国際関係の興味を抱く方々、また国際援助活動に関わる関係者、援助の歴史に興味を持つ方々の役に立てばと願っている。

知的財産・論文・学会発表など

「進歩のための同盟」の機構と活動—開発と教育の視点から— | 日本国際政治学会 2018 年度研究大会 分科会セッション D・E アメリカ政治外交 III / ラテンアメリカ、大宮ソニックシティ、2018 年 11 月 4 日 (日)。
「進歩のための同盟」における教育分野の位置 | 『帝京大学外国語外国文化』第 10 号、pp.1-24、2019 年 3 月。
「ブラジル北東部における「進歩のための同盟」の教育プログラム—政治と教育の関りが示すもの—」 | 『帝京大学外国語外国文学論集』第 25 号、pp.1-41、2019 年 3 月。

外国人子女の教育：日本、ブラジル、スペイン



外国語学部・外国語学科 教授
江原 裕美 EHARA, Hiromi

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9cc589ae2c9ca311.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：外国人児童、ブラジル人、国際移動、教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

様々な背景から国境を超えたひとの移動がますます大規模になっている現在、一つの社会の中に多様な民族や文化が存在する傾向が強まって来た。日本もそうした傾向が迫る中で、日本という国家・社会の安定性と秩序、繁栄を守りつつ、課題に対処できる社会を作ることが喫緊のテーマとなっている。教育は社会の成員を育てる上で重要であり、また問題が先鋭化しやすい分野でもある。歴史と世界の事例から学び、日本としての解決策を探ることを目指している。

日本における日系南米人児童の教育、また本学教員と協力し、海外（主にブラジル、ペルー、スペイン）における外国人移民の動向と教育に関して研究している。主に扱ったテーマは、ブラジルの日本移民と教育、日本における外国人学校、ラテンアメリカ人移民とスペイン、など。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

静岡県浜松市、群馬県大泉町、同太田市など、企業が進出した工業都市における日系人児童生徒の状況調査など、外国人労働者の雇用を考える企業や地方自治体の教育行政担当者、政策担当者のような関係者になんらかの有用な情報になることを願っている。同時に、教育政策決定にかかわる方々、外国人児童を受け入れる学校関係者等に諸外国の移民受け入れの実例とその課題を示し、様々な教訓が引き出せることを願っている。

知的財産・論文・学会発表など

「スペイン・バレンシア市と周辺における学校の多文化状況とインクルーシブ教育への模索」（外国語学部教員イネス・プラナス・ナバロとの共著）『帝京大学外国語外国文化』第10号、2019年3月。

「ラテンアメリカ人移民の変容と国家—在外コミュニティの動向と政策から」村杉美紀編『移動する人々と国民国家—ポスト・グローバル化時代における市民社会の変容—』明石書店、2017年。

ラテンアメリカ：学校環境と教育の質



外国語学部・外国語学科 教授
江原 裕美 EHARA, Hiromi

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9cc589ae2c9ca311.html>

教育

八王子キャンパス

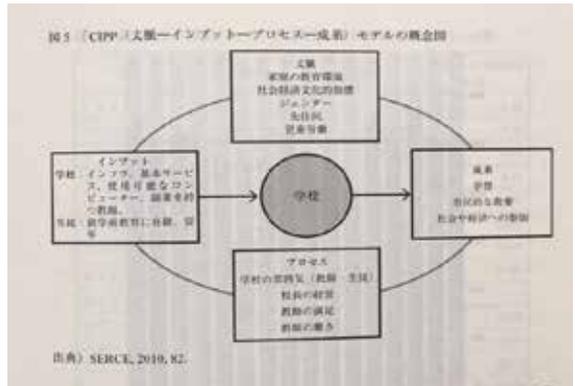
キーワード：外国人児童、ブラジル人、国際移動、教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

ラテンアメリカでは、経済発展の度合いに比して学校教育制度の普遍化に問題を抱えている。初等教育の純就学率は既に 90% を超えているが、ラスト 5% と言われるように、完全な普遍化には到達していない。また、落第や留年を繰り返し、中途退学に至る割合も少なくない。さらに学業達成度においても世界の他地域の後塵を拝している。しかし問題解決のため、1990 年代よりラテンアメリカ地域内で共通の国際学力テストを実施し、生徒の学習への影響要因を探っている。本研究では同学力テストの結果を追いつつ、他国においても学習を効果的にするヒントを得ることを目指している。

左図は同学力テストで用いられた学習成果を生む影響要因の関係を表すモデル図である。学力テストに加えて、包括的なインタビュー調査も行われて影響要因が抽出されており、学習成果を上げる構造についての研究の一助となりうる。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ラテンアメリカは広大な面積を有し、天然資源が豊富で、今後一層の発展が見込まれる地域である。国際協力や国際交流を行う上で、その土地の人々と文化について知ることは非常に重要である。企業関係者や交流団体が、この地域との経済関係、交流関係を構築する際、その土地の人的資本について知り、また産業の現地化や活動の定着化をはかるうえで必要な知識となることを期待している。

知的財産・論文・学会発表など

「ラテンアメリカ初等教育の質—地域教育品質調査の結果から—」『帝京大学外国語外国文学論集』第 26 号、2020 年。「ラテンアメリカにおける教育の進歩と課題」北村友人編『岩波講座 教育 変革への展望 7 グローバル時代の市民形成』岩波書店、2016 年。
 「内発的発展のための教育」小松太郎編『途上国世界の教育と開発 公正な世界を求めて』上智大学出版、2016 年。

教育

アクティブラーニング型授業を通して能力発揮



外国語学部・外国語学科 准教授
劔重 依子 KENJU, Yoriko

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.da135ab85afdb4c7.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：アクティブラーニング、外国語教育、協働性、実践学習、体験学習

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

グローバル化が急速に進む現代、教育分野においても正に世界のグローバル化に対応した人材の育成と、そのための様々な方法論の確立が重要だと考える。それは、それぞれの言語の背景に存在している文化理解と連動させた外国語教育方法の研究と実践が必要とされているということである。複文化、複言語化時代の現代、外国語教育分野において異文化理解と語学教育を有機的に連携させるプログラムが確立されていない状況を鑑み、教師として従来の「知識学習」から如何に「実践学習」「体験学習」の授業に切り替え、反映していくかを課題として取り組んでいる。具体的には、学習者が能動的に授業へ参加できる手法を取り入れた教授・学習法により、ディスカッションをさせるなどの方法も併せて活用し、学生の学習意欲を触発する試みを行っている。グループワークにより、言葉の微妙な言い回しや語用法について、またその背景にある当該地域の文化を合わせて理解する必要性を感じさせることで、学生の授業への取り組み姿勢が積極的になってくる。学生が社会に出てから体験する異文化との接触現場でも自信が持てるように、協働性と能動的な思考力を身に付けるテクニックを実践しながら研究している。そして、これらの取り組みは学生の言語と背景文化に対する興味意識を刺激し、継続的に自学習してもらうためのきっかけ作りである。このような取り組みを、どのように授業カリキュラムに反映させていくかについて効果測定しながら研究を続けている。写真の左から①②は教材を離れ、学習した内容をカードに記載し、それぞれグループに分かれ、ゲーム感覚で表現力、思考力の実践練習（聞く、話す読む、書く）をしている模様である。また写真③は、もうすぐ卒業するセミナー生が自分自身が面白いと思う授業のシナリオを作り、その内容を授業として実践している（学生たちの協働作業）。また現在、新しい時代のeラーニングに対応した教育（授業）を行うための教材の開発や「実習型eラーニング」の研究にも取り組んでいる。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「言葉の表現一つで人間や社会を動かす力がある」とよく表現されている。就職活動などにおいて、初対面の人や多数の人に対して自分の考えをアピールすることや、グループワーク間での協働性、他者理解力、発言力などというコミュニケーション能力を可視化することで多様な気づきを得ることができる。教育提供者としての工夫と学習者の意欲の間で意識を共有し、教育改善につなげるための強力なツールとなると考える。

知的財産・論文・学会発表など

- ・外国語教育における異文化理解力の育成—言語の文化背景を重視する視点— 2021年03月 | 帝京大学 外国語外国文化
- ・『古代中国人の「姓氏」「身分」を重視する歴史的な要因について —現代中国人の「呼称」と「身分」重視の原点— 2018年02月16日 | 日中人文社会と科学学会
- ・中国の一人っ子政策と社会構造の変化—40年間の「人口抑制」効果を中心に— 2020年01月25日 | 《知性と創造》日中人文社会科学学会

学習者が潜在能力を発揮できるように支援



外国語学部・外国語学科 助教

ニッケル フランク NICKEL, Frank

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.a2a705d80a515ec0.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：言語学、教授法、教育心理学

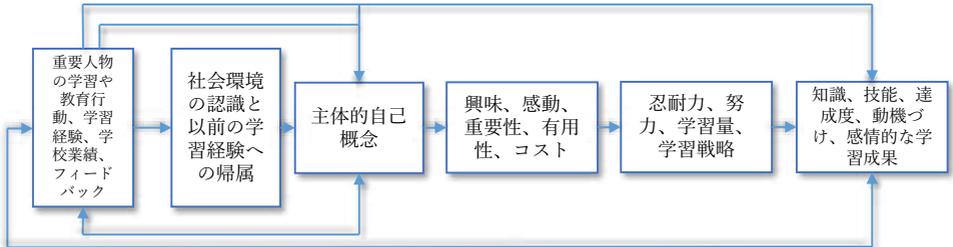
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

自己概念に関する研究では、学生が自分の知能を柔軟であるとするか、不変であるとするかを調査している。5人に1人の学生は、「知能は生まれ持ったものである」と思い込むことで、自己実現の機会を失うだけでなく、知能能力を向上することさえ挑戦できないでいます。

教員用の調査では、判断基準に照らして、どのような基準を持っているのか、学習者のパフォーマンスをどのように評価しているのかを明示する。社会的規範を適用すると、学生に固定的な特性を付与してしまう危険性がある。それによって学習者は、自分は向上できない、したがって常に学習能力が低いという知性の不変性への信仰を強めてしまう。そのような考え方が定着することで、人は生涯にわたって自分を過小評価し、その考え方を子どもに伝えまた同じことを繰り返す。

本研究は、まずこうした思考パターンがある学生を見つけ出し、知能は変えられないと考える人の割合を調べ、判断基準を参照する教員の割合を明らかにしようとしている。今後は大学生だけではなく、中学校の語学学習者と教員にまで研究対象を広げ、学習過程に困難が生じているかどうかを調べることも計画している。なぜなら、同じように平等な条件があると信じている人だけが、自分の居場所を求めて戦う勇気を持つからである。



教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

自己概念を高めるためには、肯定的な学習経験、適切なフィードバック、教員の支持的な態度が重要である。教員は、特定の性格を褒めるのではなく、努力を褒めなければならない。適切な目標とは、学習者の個々のパフォーマンス向上に合った目標である。また、スポーツ活動を取り入れた体験型教育活動も有効である。ポジティブな体験が自己概念にポジティブな影響を与えるからである。

知的財産・論文・学会発表など

1. "Ergänzen und vergleichen Sie! Warum Englisch für Worterklärungen im japanischen DaF-Unterricht nicht immer sinnvoll ist." (帝京大学外国語文化 12 号・帝京大学外国語学部外国語), 51-69, 03.2021
2. "Eine Analyse zwischen motivationaler Orientierung und Intelligenztheorien bei Germanistik-Studierenden in Japan. Ein Vergleich." 2024, forthcoming

海外(台湾)教育旅行の教材開発に関する研究



外国語学部・外国語学科 教授

山崎 直也 YAMAZAKI, Naoya

URL : <https://researchmap.jp/yamazakinaoya>

教育

八王子キャンパス

キーワード：台湾、教育旅行、修学旅行、海外修学旅行、海外研修、国際化

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

公益財団法人全国修学旅行研究協会の調査によれば、2019 年度に修学旅行で台湾を訪れた高校生は 5 万 3,860 人。6 年連続でトップの渡航先であり、2 位のシンガポールの約 2 倍以上、海外修学旅行全体の 31% を占めた。

数の上では圧倒的人気の台湾修学旅行だが、教育的意義の高い旅程を作成するための専門的情報は十分に提供されておらず、事前・事後学習の教材の開発も立ち遅れている。このことから、日本台湾学会に所属する台湾研究者によるネットワークを組織し、体系的な支援を行う態勢を整えている。

代表理事を務める NPO 法人日本台湾教育支援研究者ネットワーク (SNET 台湾) は、台湾研究者が協働し、台湾研究のコミュニティ・アウトリーチとして、台湾修学旅行を実施する高校等に支援を提供するプラットフォームであり、2018 年 9 月に発足、21 年 11 月に NPO 法人化した。

本来は、研究者による台湾修学旅行情報サイトの制作 (2020 年 11 月に「みんなの台湾修学旅行ナビ」として公開)、修学旅行の計画を作成する高校教員に対する専門的知見の提供、修学旅行で台湾を訪れる生徒への事前・事後指導、高校関係者、旅行業界を対象とするセミナーの開催等を活動の主軸としていたが、新型コロナ禍の中で、動画教材の開発に着手している。YouTube に SNET 台湾チャンネルを開設して、様々な学習コンテンツを無料で提供している。

右の写真は、SNET 台湾 YouTube チャンネル「台湾修学旅行アカデミー」の「第 3 回 台湾の教育」で、講師を担当した時のもの。このほか、「おうちで楽しもう台湾の博物館」でも、ナビゲータを務めている。



教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

専門学会の設立から 20 年を経た台湾研究の蓄積に基づき、書籍、ウェブサイト、動画等、様々な形態の教材を開発する本研究は、まさに実学と呼ぶべきものである。ウェブサイト「みんなの台湾修学旅行ナビ」の開発、YouTube 番組「台湾修学旅行アカデミー」「おうちで楽しもう台湾の博物館」等、様々な教育コンテンツを公開することができたが、それらは、台北駐日経済文化代表処教育組、同台湾文化センター、日本台湾学会、一般財団法人台湾協会等、非研究セクターとの連携がなければ実現しえなかったものである。

知的財産・論文・学会発表など

【関連する論文】

山崎直也 (2021) 「金門島スタディツアーを設計するー台湾研究のアウトリーチの一方法としてー」『境界研究』第 11 号。

【関連ウェブサイト】

SNET 台湾 YouTube チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCmftk9gkQH-hiqUvXKDF4kQ>

みんなの台湾修学旅行ナビ <https://taiwan-shugakuryoko.jp/>

多文化共生社会を見据えた日本語教材開発



外国語学部・国際日本学科 教授
藤森 弘子 FUJIMORI, Hiroko

教育

八王子キャンパス

キーワード：多文化共生、外国人生活者、地域コミュニティ、日本語教材

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
 SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

日本在住の外国人生活者にとって、日常生活及び社会生活を地域コミュニティの一員として、共に円滑に営むことができる環境の整備を行うことが重要であるとし、日本語教育推進法案が2019年に施行された。本案の目的は日本における多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現・諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持発展に寄与することである。実際、日本に来日する外国人はその地域・場所のコミュニティの一員になるはずである。本研究では、日本語がコミュニティの共通言語として機能するように、また「自分のことを知ってもらい、相手のことを知る」というコミュニケーションのツールとして役立てるように導くための教材開発を目指す。多文化共生社会を迎える日本で、多様であることがすばらしいことであるとの認識が深められるような活動を取り入れる。

「自分のことを知ってもらい、相手のことを知る」ということは、人間関係を構築するプロセスそのものである。そのプロセスにおける関係性はあくまでも「アサーティブな関係」を基本とする。アサーションとは自分も相手も大切に自己表現のこと（平木2012）で、互いにフラットな立場で、相手の気持ちを配慮し、相手の言い分を傾聴し尊重した上で、自己の気持ちや感情、意見などを正直にまた状況に応じて適切に表現するという意味である。使用者としては、日本語教室の日本語ボランティア及び外国人生活者、日本語教師及び学生を想定している。

教育

知的財産・論文・学会発表など

- 藤森弘子（2016）「タスク型初級日本語教材の開発とその特徴—学習者発話の形態素解析結果から—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』42号 13-28
- 藤森弘子（2016）「交流型授業における会話構築過程の比較分析—初級クラスと中級クラスの実践事例から—」『Bali-ICJLE2016 日本語教育国際大会予稿集』
- 藤森弘子・前田真紀（2018）初級教室活動におけるイラストの活用—スライド教材化の効果について—『日本語教育方法研究会誌』Vol.25 No.1 日本語教育方法研究会 72-73

変化する政治・行政下での 教育制度設計に関する研究

教育学部・教育文化学科 准教授

小入羽 秀敬 KONYUBA, Hideyuki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.30ca1b6e17ca9158.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：制度変化、教育行政、教育財政

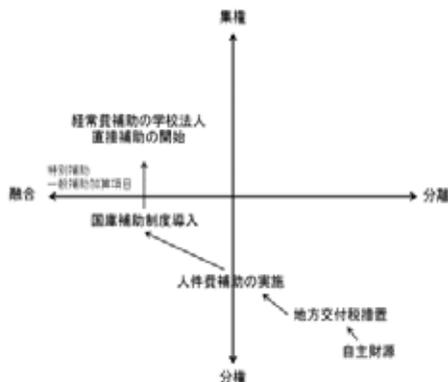
研究の概要

近年の政治・行政の急激な変化によって、教育制度も改革を迫られるようになった。教育制度に関する多くの改革は行政サイドからの要望によって始まったものであり、必ずしも教育のことを考えて実施されているものではない。このような改革を行う際に最も重要なことは、その教育制度がどのように始まり、どのような経緯を経て現在に至っているのかを実証的に明らかにすることであり、その知見をもとにして制度設計を行う必要がある。

例えば、高校以下の私立学校に対する助成は都道府県が行っているが、2000年以降の行政改革とともにその制度に変化が起こっている。その変化を評価する上で重要なのは、直近の制度変化のみを検討するのではなく、制度の変遷をモデル化（図参照）した上で現在の改革を位置づけることである。これによって、流行に左右されない、基礎的な分析結果に基づいた知見の提供が可能となる。

現在では、私立学校に加えて公立高校や高等教育など様々な学校段階での制度についての分析を行い、その成果を発表している。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに



図：都道府県における私学助成制度の変遷モデル

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

行政や教育関係機関の外部委嘱委員を務めつつ、現行の教育制度が作られた経緯や果たしてきた役割について、初等教育から高等教育まで幅広く研究を行ってきた。現在では、行政学や財政学など他領域での学術的な蓄積も積極的に用いながら教育制度のあり方について総合的な分析を行っている。新しい制度を導入する際に、今までの制度の詳細な分析結果を踏まえた上での知見を提供していきたいと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

1. H.Konyuba, Incorporation of National Universities in Japan Under New Public Management, J.C.Shin (Ed.), Higher Education Governance in East Asia, Springer, 2018, pp.21-36.
2. 小入羽秀敬『私立学校政策の展開と地方財政』吉田書店（2019年2月）
3. 小入羽秀敬「大阪府の私立高校無償化および公立高校再編の特徴・インプリケーション」日本教育制度学会第26回大会 課題別セッション「高校無償化政策の拡大は何をもたらすのか？—大阪府8年間の経験から考える」2018年11月11日（招待有）

近現代日本の教員文化と教育実践

—「教育会」を通してみる教育研究活動の軌跡—



教育学部・教育文化学科 准教授

佐藤 高樹 SATO, Takaki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.3fa560d2582fc880.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：日本教育史、教員史、教育会、教員文化

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

教育会とは、戦前日本において教育の急速な発展と関わって多様な機能を発揮した教育団体である。明治以降、全国各地に誕生した教育会は、教育行政担当官や教育機関スタッフ（校長・教員）、そして地方名望家を構成メンバーとして、各地の教育課題への対処をなし、教育事業振興に大きな影響を与えた。近代日本が欧米に比して、きわめて短いスパンで学校装置を全国に定着、機能させた背景には、教育情報ネットワーク・中間団体としての役割を果たした、これら教育会の存在があった。本研究はその実態に迫るものである。

地方教育会の多くは機関誌（写真）を発行していた。そこには、公文書からは把握できない、その地域に開花した教育文化の歴史性や個性を読み取ることができる。同時代の教育世論を捉える重要史料の一つであり、筆者は、東京・八王子をフィールドとして、その収集・所蔵確認を行ってきた。

戦後（信濃教育会など一部を除いて）教育会は解散の途をたどるが、それが遺したシステム（＝「教育会」的なもの）は、戦後の教育団体に継承され、現代の教員文化にも大きく作用しているとみられる。戦前において教育会の主要な役割は、教員の職能団体として現職研修をリードすることであった。戦後初期にその機能は教員組合が引き継ぐが、1950年代以降になると教育委員会所管の教育研究所や校長会・教育研究会が主導して今日に至る。そのプロセスについて、調査・分析を展開中である。

近年、教員政策の展開と関わって教師教育研究の分野でも、専門家協会の性格を有していた戦前の教育会が再注目されている。教員文化と教育実践の創造に寄与し、教員・教育関係者の価値観・行動様式を水路づけた教育会史の視座から、現代教育への示唆を得たいと考えている。また、活字メディアとしての教育会雑誌が果たした社会的影響力、現代教育雑誌への示唆なども今後の検討課題である。



【写真】戦前に発行された教育会雑誌

教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

地方自治・まちづくりの基礎情報となる歴史的事実の発掘・整理を通じた地域貢献を行ってきた。自治体史編さん事業への参画、歴史的事実に関する情報提供（市民講座などにおける研究成果の還元）などである。例えば、筆者は市制 100 周年事業の一環として展開された八王子市史編さん事業に専門調査員として参加、資料収集や通史編執筆に関わった。加えて、八王子学園都市大学「いちょう塾」の「はちおうじ地域学シリーズ」で、「八王子教育のあゆみ」（学校教育編・2016 年度、社会教育編・2017 年度）を担当した。この過程で学校文書の所蔵調査を行っている。その地域が独自にたどった歴史の軌跡は、当時の学校日誌に克明に記されていることも多い。貴重な歴史文書の管理（公文書ならず、私文書も含めての収集、整理、そして情報公開）というアーカイブズの観点からも、歴史研究は、調査の実務レベルの知見も含め、市民社会に還元していく必要があると考えている。

知的財産・論文・学会発表など

- ・『新八王子市史』通史編 5 近現代（上）、同通史編 6 近現代（下）（八王子市史編集委員会編、分担執筆）
- ・「大正新教育をめぐる情報の流入・交錯と地方教育会」梶山雅史編『続・近代日本教育会史研究』2010 年。
- ・「戦前八王子市における教育会の組織化と活動の展開」『帝京大学教育学部紀要』第 7 号、2019 年。

諸外国の教師教育 —メキシコ合衆国における質保証政策の分析研究—



教育学部・教育文化学科 准教授
鈴木 賀映子 SUZUKI, Kaeko

教育

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.436d715f78767fd8.html> 八王子キャンパス

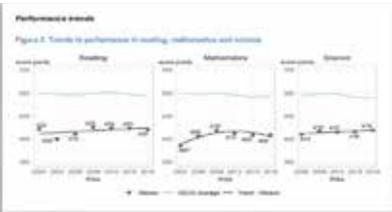
キーワード：国際比較教育学、地域研究、教師教育、教員評価、メキシコ合衆国

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

本研究は、教育の質の向上に向けた諸外国の教師教育に関する分析研究である。ラテンアメリカ地域では、初等教育の普遍化がほぼ達成され中等教育拡充に力が入られている。男女の教育格差が少ないことも特徴で、近年ターゲットが教育の量から質の向上へとシフトし、教師教育に注力されている。

32州（連邦自治メキシコ市含）からなるメキシコ合衆国では、広大な国土に広がる経済格差と教育格差の是正のために教育の質の向上が最優先課題となっている。背景には、教育をめぐる汚職や不正、教師のストライキなどによる健全な教育活動の不履行が存在し、長年にわたり教育改善が進まない要因とされている。一方、OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 によると、メキシコの教員は自分たちの職務や処遇に満足しており、高い社会的有用感も得られている。さらに、職能研修にも積極的に参加し教員評価も好意的に受容している傾向があり、低迷する教育の実態と教師の意識の間に乖離がみられる。そこで、メキシコにおける教師の質保証政策がどのように進められているか、政策理念と人事評価制度を切り口に分析研究をする。



公立学校の様子（左：移動教室 右：授業中の教室）

PISA2018 Performance trends (Mexico) (OECD)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

大きな社会構造の変化を受け、民間企業他で雇用の形態が大きく変容した。これに伴い能力評価と業績評価からなる人事評価制度の変革が民・官ともに行われた。本研究は、諸外国の教育職員の質保証を支える評価制度に焦点をあてるが、これは日本国内外問わず、また民間企業もしくは公務員例外なく「人材をどのように評価・育成するか」といった普遍的な問いに繋がる。さらに、新たな人事評価制度の在り方は、教育という分野に限らず全ての領域・業界において重要な 이슈となっている。パンデミックという大きなうねりを経た世界で、本研究は、諸外国の教員評価制度の事例を切り口に求められる人材の評価と育成にむけた取り組みの一例を見出す一助となる。

知的財産・論文・学会発表など

- ・ 口頭発表 鈴木賀映子、鴨川明子、谷口利律、「教員評価の国際比較－ TALIS2018 およびメキシコ、南アフリカに着目して－」、日本比較教育学会第 58 回大会 2022 年 6 月
- ・ 共著 鈴木賀映子他、「海外教科書制度調査報告書」（メキシコ合衆国担当）、公益財団法人教科書研究センター（2022 年 10 月更新）

本研究は、科学研究費助成事業基盤研究 (C)21K02317「メキシコにおける教師の質保証政策－職能成長を支える理念と評価制度の分析研究－」の助成を受けたものである。

国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究 ーアメリカ・メキシコ国境を事例にー



教育学部・教育文化学科 准教授

鈴木 賀映子 SUZUKI, Kaeko

教育

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.436d715f78767fd8.html>

八王子キャンパス

キーワード：国際比較教育学、地域研究、国境学、教師教育、米墨国境、越境児童

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

本研究は、米墨国境地域であるサンディエゴ（アメリカ・カリフォルニア州）ー ティファナ（メキシコ・バハカリフォルニア州）地域における「越境児童生徒」（通学のために日々国境を越えている児童生徒）とその家族に焦点を当て、国境地域にみられる特有の現象を可能にする社会的、制度的、経済的背景を明らかにするものである。さらに、当該地域の学校教育および教師を取り巻く状況や求められる資質とその職能形成など基礎教育を構成する事象について調査研究を行う。

米国サンディエゴの国境地域の学校には多くの越境児童生徒が在籍しその約7割がELs（English Learners: 英語を第一言語としない英語学習者）であるとも言われている。しかし、カリフォルニア州法等によりその詳細については公表されていない。そこで、当該の児童生徒とその保護者、それを受け入れる学校、教師、教育委員会等を対象に調査研究を行い実態を明らかにする。



調査対象地域 (Maps)



英語と西語で記載された就学用リーフレット



インタビュー風景

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

グローバル化の進展とともに、ヒト・モノ・情報の流れが一層活発になる現代社会において、社会の事象を捉える際に「ボーダレス化」は欠かせない視点となる。本研究は、これまで研究対象とならなかった国境・境界地域に焦点を当て比較教育学の手法でアプローチしようとする研究である。カテゴライズされにくかった曖昧さを有する地域やそこで発生する事象を「透過性」という概念で示すことで、社会情勢によって変動する要素を整理することが可能となる。

知的財産・論文・学会発表など

- 鈴木賀映子、市川桂、「越境する子どもを取り巻く制度と背景に関する研究ーアメリカ・メキシコ国境を事例にー」、比較教育学研究第60号、東信堂。
- SUZUKI,Kaeko, ICHIKAWA,Katsura. Border Studies and Comparative Education: A Case Study of the U.S.-Mexico Borderland XVII World Congress of Comparative Education Societies.
- SUZUKI,Kaeko, ICHIKAWA,Katsura.Systems and the Background of the U.S.- Mexico Transborder Students, 12TH BIENNIAL CONFERENCE: KATHMANDU,Comparative Education Society of Asia
- SUZUKI,Kaeko, ICHIKAWA,Katsura. A Study on the Phenomena and Issues of Education in Borderland: A case study of the U.S.- Mexico border WERA.2021 VIRTUAL FOCAL MEETING.
- 鈴木賀映子、市川桂、「国境地域の教師を取り巻く環境と求められる資質能力ーアメリカ・メキシコ国境を事例にー」、日本比較教育学会第57回大会。

本研究は、科研費基盤研究 (A) 18H03659「境界研究の分析法を用いた国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究」および基盤研究 (B) 22H00974「越境通学児童の実証的比較研究ー国境の透過性および国民形成との関係を中心にー」の助成を受けたものである。

美術関連科目によるジェネリックスキル獲得



教育学部・初等教育学科 准教授
大貫 真寿美 OHNUKI, Masumi

教育

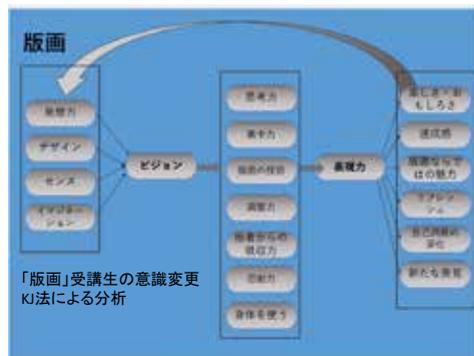
URL : https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202301013641941754

八王子キャンパス

キーワード：アクティブラーニング、ジェネリックスキル、美術教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要



美術関連科目『版画』『絵画』『芸術と社会貢献』『美術（総合基礎科目）』においてアクティブラーニングを念頭におき、ジェネリックスキル（社会的に汎用性のある能力：コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、倫理的思考力、問題解決力）獲得を目的として授業デザインを行っている。美術関連科目内でも獲得できるスキルはそれぞれの科目によって特化していることが心理学を援用して分析した結果によって示唆された。

一例をあげると『版画』では「思考力」「集中力」「調整力」「他者からの吸収力」「忍耐力」が付き、結果「表現力」が付き、それはまた「発想力」「デザイン力」「センス」「イマジネーション」へと結びつき、学びは循環していると分析された。

また、 Semester後に受講生の意識変容を調査した結果、それぞれの科目に文部科学省の目指す「主体的・能動的深い学び」を実感しているとの結果が出た。（図：日本美術教育論集，51より引用）



『版画』授業風景

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

AIによる労働の変化を考えると、これからの社会に必要となる能力は「発想・構想の能力」ではないかと考える。美術教育によって得られるジェネリックスキルのなかでも特にこの「発想・構想の能力」の獲得に特化している。また、主体的に学ぶ姿勢や表現力についても格段に質の高いものと感じる。学生が美術関連科目を受講することは、未来を担う人間の能力の錬成となると確信している。美術関連科目は、文部科学省の求めるこれからの高等教育の可能性を多く含んでいる。

知的財産・論文・学会発表など

最近の査読付き論文

1. 大貫真寿美 (2017) 『美術を専門としない大学・短期大学における美術教育』日本美術教育論集，50
 2. 大貫真寿美，三好昭子，三好力 (2018) 『アクティブラーニングによる意識変容』日本美術教育論集，51
- 国際学会口頭発表 2017年 INSEA

1. A Potential of Art Education in Non-Specialist Junior Colleges/Universities:A Study on the textbook focused on generic skills
2. What abilities develop by university art classes?

「人種」「民族」をどう教えるか



教育学部・初等教育学科 教授

中山 京子 NAKAYAMA, Kyoko

URL : <https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/staff/detail/1430/181>

教育

八王子キャンパス

キーワード：「人種」、人種化、学校教育、文化人類学、学際的研究

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

アメリカの人種主義に基づく人種差別問題のニュースは日本でも伝えられているが、その問題は多文化化が進む日本の社会にも潜んでいる。肌の色による区別や「人種」という考え方は日本人にも根深く、偏見や差別に苦しんでいる人々もいる。「人種」は社会的に構築されたものであり、生物学的に「人種」は支持さず、本来は種は一つの「ヒト」である。それにもかかわらず、日本の多くの児童生徒、教師は、「白人」「黒人」「黄色」といった「人種」があると考えている。その背景には、「人種」という用語がメディアで多用され、学校教育でも社会系科目を中心に「人種」「民族」という用語が教えられてきたことがある。

そこで、「人種」概念をどのように解体することができるか、そのために学校教育においてどのように教えたらいいか、を追究している。「人種」概念研究の専門家竹沢泰子氏（京都大学）のアドバイスを受けながら、社会科教育・多文化教育・国際理解教育を専門とする森茂岳雄（中央大学）、高橋健司（鳥取大学）、太田満（奈良教育大学）、織田雪江（同志社中学・高等学校）、東優也（海老名市立東柏ヶ谷小学校）らと研究チームをつくり、議論を重ねてきた。

議論の中で、「人種」のみならず「人種化」のプロセスにも着目し、日本の歴史や現代社会において人々を区分し括ることで実体化する「人種化」の問題にも、教育実践を通して迫ることを試みている。

最近では、科研「ひらめき☆ときめきサイエンス」で、『人種』はいくつ？地球儀を使った旅と身体表現を通じてヒトの営みを考えよう！（課題番号20HT0089）を実施し、小学校5、6年生児童に「人種」「民族」を考えるワークショップを実施した。また、帝京大学小学校と連携し、国際理解教育活動の一環として、植民地主義の歴史的背景から混血が進んだグアムの先住民チャモロの人々や文化に着目して「人種」「民族」を学ぶプログラムを実施している。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

古典的な「人種」概念のとらわれから解放され、批判的思考力を持つことにより、あらゆる職業、生産活動において人の区分に関する公正、正義が求められるようになる。それにより世界的スタンダードとなりつつあるSDGsに寄り添う社会的責任を果たすことができると思われる。社会の多文化化が進みつつある日本において、「人種」概念を解体させるとともに「人種化」も認めず、人類に関する新たな認識を広げることで、世界に遅れをとらないグローバルな感覚を備えた日本の社会を構築することができる。オリンピックや世界大会など、人の多様性を目にする機会こそ、本研究の視点が求められるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

- ・中山京子・東優也・太田満・森茂岳雄編著『「人種」「民族」をどう教えるか—創られた概念の解体をめざして—』明石書店、2020年12月。
- ・『人種』についてどう教えるか—実践を通してみる可能性と課題—日本社会科教育学会第70回全国研究大会、筑波大学（共同発表者：東優也、太田満、織田雪江、高橋健司、森茂岳雄）2020年11月28・29日
- ・「文化人類学をどう教室に持ち込むか—文化人類学からの実践例—」日本文化人類学会関東地区研究懇談会、東京大学、2019年2月10日

運動経験が保育(運動遊び)実践に及ぼす影響



教育学部・初等教育学科 教授

浪越 一喜

NAMIKOSHI, Itsuki

教育

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.8b2cf1ea533a6a5e.html>

八王子キャンパス

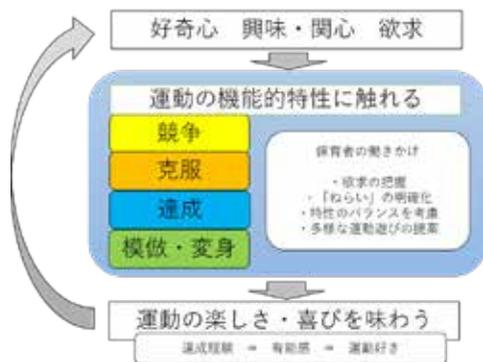
キーワード：運動・スポーツに対する意識、保育内容（健康）、保育実践

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

2012年3月に文部科学省は幼児期運動指針を策定した。幼児期に主体的に体を動かして遊ぶ楽しさや喜びを経験することは、その後の運動に親しむ資質や能力、心の発達にも大きな影響を及ぼすことから、運動習慣の基盤づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うと共に、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指すとしている。また、運動の行い方が示され、①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること、②楽しく体を動かす時間を確保すること、③発達特性に応じた遊びを提供することを挙げている。研究の主眼は、幼児の豊かな運動生活の創造を目指して、日常の保育実践の中でその充実が求められている運動遊びについて、保育者が積極的に運動遊びを提案し、指導していくために、保育者を養成している大学で学ぶ学生の運動・スポーツをめぐる意識を踏まえ、今後の保育者養成における指導内容の課題を明らかにすることにある。

幼児期の運動遊びについては、走跳投といった基本的な運動が中心となるが、「鬼遊び」も「ドッジボール」も個人または集団の競争が楽しさの核をなしている。宇土（1987）は、運動の特性を、(1)心身の発達や体力の向上に対する効果、(2)その運動特有の技術や形のしくみ、(3)子どもにどのような魅力を与え、どのような欲求を充足するのか（機能的特性）で説明している。幼児期においても、運動の楽しさは様々であり、特に1997年小学校学習指導要領改訂から機能的特性に力点を置き、運動の楽しさや喜びを味わう体育が強調されてきた。現在は、技術の向上、系統性の観点から批判的考察が多くみられるが幼児期における運動遊びの楽しさ（勝ち負けを競うことが楽しい運動、物的障害へ挑戦し、それを克服することが楽しい運動、記録やフォーム等の観念的基準に挑戦し、それを達成することが楽しい運動、自由に動き、自由に工夫し、イメージ等を模倣、表現することが楽しい運動）から再考する。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

学生の実践を想定した模擬保育や保育者の保育実践に向けて、運動遊びの内容の改善を伴う新たな観点を示すことができるのではないかと考える。

知的財産・論文・学会発表など

浪越一喜・青木通・中尾健一郎・石井十郎「体育及び運動遊びの指導をめぐる保育者養成の課題」日本保育学会第68回大会発表要旨集 2018年

体育の指導観形成における組織文化の影響



教育学部・初等教育学科 教授
成家 篤史 NARIYA, Atsushi

教育

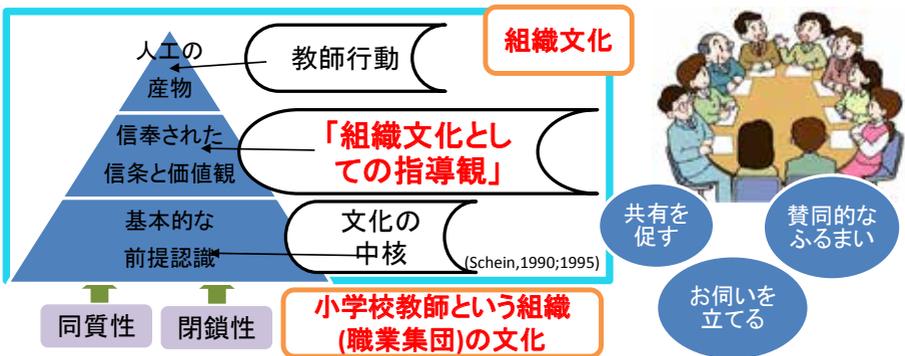
八王子キャンパス

キーワード：組織文化、暗黙の前提認識、企業文化・チーム文化

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

これまでの体育の指導観形成の研究では、個人が所有している指導観に注目がなされている。しかし、教師は組織の中で指導観を形成していくため、組織の中でどのような指導観が共有されているかということが重要である。小学校教師の体育の指導観は、組織内で体育に関する事柄の共有を促す働きとその共有を抑制する働きの両方が存在する関係性の中、形成されていた。そして、この関係性の背景となっているのが、同質性と閉鎖性という小学校教師という組織に存在する文化であった。小学校教師という組織には、この同質性と閉鎖性によって形成されている組織文化が存在していた。教師の指導観は組織の影響を強く受けているため、組織文化と密接に関連している。そう考えると、体育の指導観形成に暗黙裡に影響を及ぼしている存在は、同質性と閉鎖性に基づく組織文化である。この組織文化は、教師間の「賛同的なふるまい」「共有を促す」「お伺いを立てる」といった関わりによって形成されていくということが明らかにされた。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究では、教師の指導観を「組織文化としての指導観」と関連させて捉えることで、組織で効果的な研修や研究を運営することが可能となり、結果として教師の専門性を培うための知見を提示することができている。このことは、企業に勤める成員、様々な組織に属する成員の価値観形成について広く活用できる。

小学校教師という組織の文化は【同質性】と【閉鎖性】に特徴づけられていた。この特徴は、日本の文化の特性を映し出している。すなわち、多くの企業や組織に存在している組織文化の基盤に【同質性】と【閉鎖性】という特徴があると考えられる。この知見は、企業や組織を「学び続ける組織」へと変貌させる手掛かりを提示できるものと確信している。

知的財産・論文・学会発表など

- 1) 体育の指導観形成における組織内の教師間の関係性に関する研究—小学校教師に着目して—。成家篤史・鈴木直樹・石塚諭. 体育科教育学研究第34巻第1号：1-16. (R)2018年3月発行
- 2) 組織文化の再形成における教師間の関わり—揺らぎと安定の狭間で—。成家篤史・鈴木直樹. 学校教育学研究論集第36号：77-90. (R)2017年10月発行

教育

小学校での算数学習における 予習動画教材を活用した反転授業の実践と評価



教育学部・初等教育学科 / 教職センター 准教授

松波 紀幸 MATSUNAMI, Noriyuki

URL : <https://researchmap.jp/metro>

教育

八王子キャンパス

キーワード：教育工学、算数、授業改善、協働的な学び、予習動画

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

本研究では、これまでに小学校の算数科において、時間的に限られた教育課程の中で、児童らが主体的・協働的に学ぶことのできる授業をデザインし検証してきた。具体的な授業実践の流れは以下の通りである。

まず、児童らに学習の振り返りと次回までに各児童が考えてくる課題を教師が具体的に指示した予習動画教材を、授業の終末に4～5分程度、視聴させる。次に、児童らは、その中で示された予習の仕方に基づき、予習課題を各家庭で考えてくる。さらに、対面授業の中で、全ての児童が自らの考えを発表し、他者の考えを共有することを通して、それぞれの考えを再構築する場を設けた。

このような授業実践の結果、児童の予習実施状況の記録やワークテストの得点から学力向上に一定の効果があることが明らかとなっている。また、児童にとって予習動画教材が、家庭学習の促進や対面授業の理解や評価の誘因になっていることが、児童及び保護者に対する調査から明らかになっている。しかしながら、本実践で明らかとなった学力向上については学習後比較的短期間のうちに検証されたものであることから、その後の学習定着率についてより詳細に検討することが求められる。そこで、実践終了3か月後に児童らが取り組んだ学力調査をもとに分析したところ、各観点のうち「考え方」に有意な差が見られ、一定度の効果を見出すことができた。今後は、GIGAスクール構想による児童1人1台コンピュータの実現による環境を活かし、他観点の定着率向上に向けた方策についてさらなる検討が必要であると考えられる。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究が進むことにより、初等教育における学びの変容、授業の在り方の変容に寄与することができる。限りある授業時間を有効に活用しながら、児童らの主体的な学びを誘発し、対話を通じながら、内容を深めていくことが可能である。

授業の形式には様々なものが想定されるが、学校現場との連携を図りながら、よりよい学びの場を共に考えたい。また、より学校現場に馴染む情報機器についても、今後検討していきたい。

知的財産・論文・学会発表など

論文（査読有）

1. "Production of Video Learning Materials as Preparation for Promoting Active Learning in Arithmetic" Noriyuki MATSUNAMI, Masahiro NAGAI SITE2018 971-976 2018年3月
2. "E-learning Effectiveness Using Video Learning Materials for After-School Lesson Preparation at an Elementary School in Japan" Noriyuki MATSUNAMI, Masahiro NAGAI ICETI 2017 132-136 2017年3月

書籍（査読有）

Noriyuki MATSUNAMI, Masahiro NAGAI "Chapter 16: Gifted Flipped Learning for Math Classroom With Video Materials" Shigeru IKUTA, Handbook of Research on Software for Gifted and Talented School Activities in K-12 Classrooms, IGI Global, 344-369, December 2019.

日本語を母語とする子どもにおける効果的な 英語読み書きの学習・支援方法



教育学部・初等教育学科 講師

銘苅 実土 MEKARU, Mito

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.5ef7806ae8df9349.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：日本人児童・生徒の英語学習、読み書き習得・支援

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

中学生を対象として、英単語綴り困難を生起させる背景要因について研究した結果、中学生段階での綴り習得困難には、①ローマ字の習得状況、②英単語の流暢な視覚的探索、③英語独自の正書法知識（綴りの規則の理解）の3つの要因が大きく影響していることが確認されました。①ローマ字は小学校で学習される、日本人生徒が唯一持っているアルファベットに関する知識です。このため、中学校から本格的に読み書き指導が始まると、私たちはその知識を活用して英単語を覚えようとする（例：Wednesday = ウェドネスデイ、orange = オранже等）。しかし、英語は発音と綴りが一致しない単語も多く（例：make はマケではなくメイクと読む）、②英単語の形を視覚的に処理する力や、③綴りの規則（ea= イー、単語の最後につく E は発音しない、等）が重要な役割を果たすようになるのです。

2020年度からは小学校で英語が教科になり、これからは小学生から英語の読み書きの基礎を学ぶ必要が生じています。非アルファベット言語圏で生活する私たち日本人にとって、日本語よりも子音や母音の数が多く英語の発音を学習したり、発音に基づいて読み書きを学習することはとても困難なことです。英語のコミュニケーションや読み書き習得の下支えとなる英語独自の音の効果的な学習方法とは何か、そのうえで音の理解を読み書きの習得にどのようにつなげていけばよいのか、明らかにすることが求められています。このため、現在は日本小学生にとって効果的な英語の読み書き指導方法や教材について研究を進めています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

困難を生じさせる背景要因を明らかにする研究を行うことで、担任教員が児童生徒のつまずきの背景を把握できるアセスメント課題の開発が可能となる。また、背景要因に応じた支援方法及び教材開発につなげることで、特に実践が積み重なっていない小学校における英語教育で使用可能な教材を現場に提供可能である。これらのアセスメント課題及び支援教材を一つのパッケージにまとめることで、つまずきの背景に応じた支援・指導が可能であり、英語導入期におけるつまずきを軽減することにつながると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

(学術論文) Developmental properties of risk factors causing English spelling and Kanji writing difficulties in Japanese junior high school students. Mito Mekaruru. Journal of Special Education Research (査読有), Vol.5, 35-47, 2017. (第29回日本特殊教育学会研究奨励賞受賞)

(学術論文) 「中学生における英単語の綴り習得困難のリスク要因に関する研究—綴りの基礎スキルテストと言語性ワーキングメモリテストの低成績に基づく検討—」、銘苅実土ほか5名、『特殊教育学研究』(査読有)、第53巻、pp.15-24、2015年。

授業実践のエスノメソドロジー・会話分析的研究



教育学部・初等教育学科 准教授

森 一平

MORI, Ippei

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.6fd31c4d12483cbb.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：授業研究、エスノメソドロジー・会話分析

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

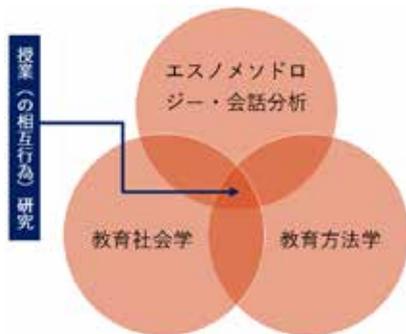
研究の概要

現在私は左下図に示すように、3つの学問分野が交差する領域において、授業というやりとり（相互行為）を形づくるために用いられる無自覚な方法＝「エスノメソド」を（再）発見する研究に取り組んでいます。

研究では、実際にとり行われた授業実践の映像や音声を記録し、それを会話分析領域で開発されてきた特別な記号を用いながら「トランスクリプト（文字転写）」に起こし、分析を行います（右下の例参照）。

例えば右下の「トランスクリプト例」からは、教師が自身の発話を細切れにしながらかつその都度語尾の音調を上昇させることで、子どもたちに数多くの発言機会を切り拓くという発問構築「技法」が見て取れるはずで

このように授業という実践は、非常に細かなレベルで様々な、そして巧みな方法を用いながら組み立てられています。こうした種々の「エスノメソド」を発見し、つまびらかにしていくのが、私の取り組んでいる研究です。



【トランスクリプト例】

01 T: ぼくは:::?
 02 (1.0) エルフの:::?
 03 S: (1.0) おなか
 04 T: [おなかを::?
 05 Ss: [おなか(を)::
 06 S: まくらにした.
 07 T: [まくらにし(た).
 08 S: [まくらにして寝てた.

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

授業を形づくる無自覚な方法を発見することは、まずもって当の授業実践を行った教師たちに、それが望ましいものであれば再現性を確保し、望ましくないものであれば変えていくための——相互行為の詳細なレベルに立脚した——振り返りの機会を提供することが可能となります。加えて例えば、「名人の授業」や「新しい実践のモデルケース」で用いられている方法が明らかにされたなら、それはすべての教師に対して自身の授業づくりや授業改善のための重要な資源を提供するものになりえるでしょう。もちろん、まだ現場に出たことのない学生たちに対する「教師教育」の場においても、この「授業を形づくる無自覚な方法」は実践に直結する有益な知となるはずで

知的財産・論文・学会発表など

- 森一平, 2014, 「授業会話における発言順番の配分と取得——『一斉発話』と『挙手』を含んだ会話の検討」『教育社会学研究』94: 153-172.
- 森一平, 2019, 「一斉授業会話における修復の組織再考」『教育学研究』86(1): 1-12. 他

多様性社会での国際的な教育対話研究



大学院教職研究科 教授

荒巻 恵子

ARAMAKI, Keiko

URL : https://researchmap.jp/k_aramaki/

教育

八王子キャンパス

キーワード：多様性社会、インクルージョン、教育対話

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

多様性社会に必要な「対話」を探究する

多様性社会では、共生する他者や他の文化を受け入れながら、人間らしく生きるという尊厳をもった人間性を、経験の中で、英知と共に獲得していくことが必要です。その実現に取り組む学問分野がインクルーシブ教育学です。この学問分野が多様性社会で注目するのが「対話」です。

ケンブリッジ大学教育対話研究グループ (CEDiR) との国際共同研究では、「教育対話」「対話と創造的思考」「デジタル技術と対話」「教育対話における文化的、宗教的、哲学的伝統」「対話、専門性の向上、リーダーシップ」の5つのストランドの研究を進めています。ストランドは、ピースをつなぐ糸の意味を持ちますが、これら5つの糸を紡ぎながら、「対話」を研究しています。

このうち「教育対話」研究では、『教育対話のためのガイドブック（教師編）：Teacher for Scheme Educational Dialogue Analysis』(CEDiR 訳荒巻ら：2022) を発行し、教師が教室で子供と対話するときの教授法や、子供同士が対話に参加するためのより良い話しかたなどの対話を例示します。「対話、専門性の向上、リーダーシップ」研究では、多様性社会における対話とは何か？対話がつなぐ人と人との関係性や専門性の向上、リーダーシップとしての対話を検討します。「デジタル技術と対話」では、新しい対話のあり方としてデジタル技術の光と影に焦点をあて、質の高い対話のための探究を進めています。



教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

今、ダイバーシティやインクルージョンが企業、社会において重要なキーワードになっています。教育の分野では、多様な人々が共に生きるインクルーシブ社会を実現するための教育として、インクルーシブ教育に取り組んでいます。CEDiR は、インクルーシブ教育学と教育対話研究の知見から「対話」のワークショップを開催しています。参加してみませんか。

知的財産・論文・学会発表など

Cambridge Educational Dialogue Research : CEDiR 訳荒巻恵子ほか、『教育対話のためのガイドブック（教師編）：Teacher for Scheme Educational Dialogue Analysis』, ケンブリッジ大学 T-SEDA 研究グループ編, 2022.

https://www.educ.cam.ac.uk/research/programmes/tseda/Japanese_T-SEDA_V8a.pdf

日本教師教育学会第 10 期国際研究交流部共著、『ユネスコ・教育を再考するーグローバル時代の参照軸ー』荒巻恵子担当範囲: 本文訳, 解説編「6. インクルージョン/インクルーシブ, エクスクルージョン, 声」, 学文社, 2022.

荒巻恵子, 『インクルージョンとは何か?ー多様性社会の中での教育を考えるー』, 日本標準, 2019.

国語科教材研究—深い読みを目指した思考力・想像力の育成—



大学院教職研究科 / 教職センター 教授
橋本 和顕 HASHIMOTO, Kazuaki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.34e3ab75b17ef570.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：国語教育、文学教材、思考認識、教材分析、学びの視点

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

国語科の教材研究の方法を身に付けることは、学習者の思考の流れをとらえることであり、思考認識を段階的に高めることにつながる。そこで教材の領域によって国語科における教材文の分析手法の開発を手堅く行うことで、授業づくりの基盤をどう構築していくかを研究していく。教職課程に学ぶ学生が、教材から学習指導する内容を生み出すためのアプローチの仕方を取捨し、実践的な理論を構築していく必要がある。文学教材に絞って考えた場合の、深い学びを成立させるための読みの視点をまとめた。細部から場面につなげていくとき、展開から構成に転じていくときに、具体的な言語表現を根拠に、それらに貫く視点に気づくプロセスが、鋭さと豊かさを兼ね備えた読み手の育成につながっていくと捉えている。読む活動の本質に迫る学びの実態から分析の視点を導き出す。

文学教材における深い学びの視点

描写と表現のよさに気づく
 作品全体の価値に迫る



鋭く・豊かな読み手を育てる



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 教員の授業づくり研修会や研究授業協議会での応用が期待できる授業力を高める研修会での教材分析の視点を提供することができる。
- 教職課程に学ぶ学生の模擬授業等、学習指導案の作成に活用する教材とどう対峙していくかの視点を学び合うことが可能となる。
- 読書教育における豊かな読み手の創造から、生涯読書のあり方へとつなげる鋭い見方や豊かな感受性をもった、読み手としての自己の成長を促す。

知的財産・論文・学会発表など

- 2019・12『教育実習ガイド』第2版 萌文書林 共著
- 2017・3『語りの位置に着目した文学教材の分析視点と読みの学習』帝京大学教育学部紀要 単著
- 2015・11 教科教育シリーズ第1巻『国語科教育』一藝社 共著
- 2013・9『教材事典』—教材研究の理論と実践— 日本教材学会編 東京堂出版 共著

学習の躓きを示す児童生徒に対する多分野連携による アセスメントと指導・支援



大学院教職研究科 教授

藤井 靖史 FUJII, Yasushi

教育

八王子キャンパス

キーワード：学習障害、LD 外来、視機能評価、学習教室

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

平成 21 年に設置された大学院教職研究科（教職大学院）では、医学部を設置する本学の特徴を生かすべく「教育と医療の連携」をカリキュラムに取り入れた。「教育と医療の連携」は、全国に 54 ある教職大学院のなかでも、本学が最初に掲げ、現在でも数校でされているのみで、連携する教育委員会からも大いに期待されている。そうした中、平成 23 年度から、教職研究科では「ワクワク学習教室（板橋キャンパス）」を開設し、医学部附属病院小児科 LD 外来（発達評価）や文学部心理学科、医療技術学部視能矯正学科（特に系統的視機能評価）との連携のもと、学習メカニズムの研究に根ざした学習指導実践を行ってきた。その中で、読み書きの躓きの原因分類を新たに提案し、従来から教育現場で行われていた学習指導方法に理論的根拠を示した。学校との連携（地域連携）強化を目的に「読み書きに躓く児童への学習支援研修会」（4 回）を開催している。

小児科LD外来新患の診断名（2020.4.～2022.3）

	全体	LD	ASD	ADHD	LD +ASD	LD +ADHD
人数	56	46	14	11	12	12

LD46名中、WAVES評価実施した37名の結果

全体	視力 障害	色覚 障害	斜視・ 斜位	眼球運動 障害	視覚認知 障害	音韻 障害
37	7	1	8	4	13	30/34

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

教育現場で捉えられる学習の躓きに対して、医学的な学習障害の診断がされないことも少なくない。本学では医学部附属病院小児科 LD 外来（兼担）を担当する私（医師）が大学院教職研究科の専任教員であることを強みに、教育と医療の連携をベースとした総合的な学習障害のアセスメント・指導を実践している。学習障害の指導には、読み書きの能力を高めることの他に、ICT 機器の活用を含めた児童生徒個々に合った学習方法の確立が重要である。学習障害に関しては、今後ますます AI を始めとする情報工学との連携が期待される領域である。

知的財産・論文・学会発表など

藤井：学校の指導の場に役立つ教育と医療の連携 特別支援教育 平成 28 年 No.63、藤井：発達障害を有する子どもへのかかわり 小児科臨床 2014 年 9 号、藤井ほか：帝京大学大学院教職大学院「ワクワク学習教室」開設 5 年間の実践報告 帝京大学大学院教職研究科年報 7、藤井：「発達神経学から、『書く』ことを考える」第 58 回全国書写書道研究会記念講演 2017 年 8 月、藤井ほか：注意欠陥多動性障害と読み書き障害の合併例における診断と治療、学習支援に関する考察 帝京大学大学院教職研究科年報 10、早川ほか：未知学漢字の学習が困難な児童の系統的視機能評価 第 28 回日本人 LD 学会 2019 年 11 月、藤井：「発達障害の神経科学総論」第 78 回日本弱視斜視学会総会シンポジウム 3 2022 年 6 月、藤井ほか：学習障害 医療から教育へ～ワクワク学習教室 10 年を踏まえて～ 帝京大学大学院教職研究科年報 13 号 2022 年 7 月

障害児者のライフスキル支援に関する研究



理工学部・情報電子工学科 教授

清水 浩

SHIMIZU, Hiroshi

教育

宇都宮キャンパス

キーワード：障害児者の就労支援、ライフスキル支援、キャリア教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

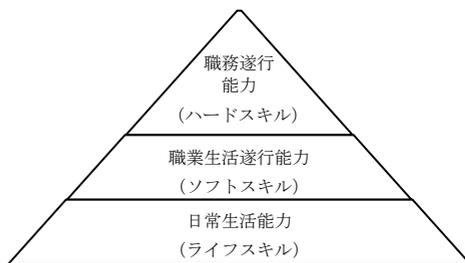
研究の概要

職業リハビリテーションでは、人が仕事をする上で必要な能力をハードスキルとソフトスキルと呼んでいる。ハードスキルとは人に教えることができる能力であり、具体的には、学歴や資格の取得、タイピングのスピード、機械操作、プログラミングなど実際の仕事に結び付くものである。一方、ソフトスキルとは数量化するのは困難なスキルであり、人との関わりのスキルとして知られている。具体的には、身だしなみを整える、職場のルールやマナーが守れる、適切に昼休みの余暇を過ごせるなどである。

ライフスキルとは言い換えると地域で自立して生活できる力であり、大人になって行う必要がある活動である。障害児者が就労生活を続け自立をしていくためには、ライフスキルに関する指導内容を教育課程に位置付けて学校教育を充実させていくことが望まれる。

障害児者の就労上の課題については、コミュニケーションや社会性等の課題が周囲に理解されにくいこと、支援者の職場への介入による職務と環境とのマッチング、障害理解への助言が十分でないことなど、対人関係面や職場環境面といった主にソフトスキルに関する支援の必要性が数多く報告されている。また、就労上の課題に対するハードスキルとソフトスキルの割合はソフトスキルが全体の8～9割となることから、在学中にソフトスキルを獲得することができるように計画的に準備をする必要がある。

以上のことから、仕事をする上で求められるスキルを獲得し充実した職業生活を送るにあたり、それらの力の土台となるライフスキル(図)に関する研究を主に行っている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

知的障害、発達障害、重度重複障害等の障害児者への就労支援において、具体的には、障害児者一人一人の自己理解、進路相談、職業アセスメント、ジョブマッチング、就労意欲の育成、職場定着支援等を行っている。このような中、就労に関する専門性の向上に努め、障害児者の就労に対する夢や希望を大切にしながら、就労先の担当者及び各関係機関等と連携を図りながら支援の充実を図っている。また、実践や考察を論文としてまとめ、障害児者や関係機関等に対し、障害の理解や支援の在り方等について情報を発信している。

知的財産・論文・学会発表など

【単著】

1. 『自閉症スペクトラム児者のキャリア教育に関する研究－TTAPを活用したライフプラン構築モデルの開発－』風間書房、2016
2. 『TTAP 実践事例集特別支援学校のキャリア教育－希望の進路を叶える－』田研出版、2018
3. 『発達障害児者のライフプランニングに関する研究』風間書房、2020
4. 『特別支援学校におけるICFの活用に関する研究』風間書房、2022

五感に訴える理科教材の開発



理工学部・バイオサイエンス学科 特任教授

梶谷 正行 KAJITANI, Masayuki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.6fd31c4d12483cbb.html>

教育

宇都宮キャンパス

キーワード：理科教育、体験型講座、教材開発、キット化

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

光で色が変わる光合成ペンダント

水草の光合成と呼吸により炭酸イオンが増減し、pHが変化。このpH変化をBTB指示薬の色変化を格納した系。
左：クレスール・レッド（弱酸性で黄緑～弱アルカリ性で赤）
右：プロモ・チモール・ブルー（弱酸性で黄緑～弱アルカリ性で青）

回すと色が変わって見えるCD独楽

高速回転により色（反射光）が混合され、違う色を感じる。白黒模様だけでも色を感じる＝「ペンハムの独楽」の錯視。型紙を交換できるので、いろいろ試せる。

回折格子を用いた光の万華鏡

接眼窓から光源をのぞくと虹が見える。自然光と蛍光灯・LED灯とでは、虹の見え方が異なる。色調可変LED灯と組合せると、光の加法混色を実感できる。

理科好きを育てるためには、子供の頃から本物の「科学の不思議」をたくさん体験させて興味・関心を芽生えさせ、それをさらに維持・向上させていくことも重要だと考えている。その一つの策として、高大連携を目指した「帝京大学サイエンスキャンプ」等のプログラムをより低学年向けに展開し直し、対象を中学生・小学生、さらには（難しい理屈は抜きにして）幼稚園児でも楽しめる体験型イベントとして企画・実践している。

企画にあたっては、短時間（30～60分間）ででき、五感で楽しめる系にすることを旨とした。これらは公知のアイデアをもとに改良したり、異なる系を組み合わせたりして工夫を重ね、大がかりな機器や施設などは不要なイベントに仕上げ、「出前講座」も可能としている。

具体的には、●光で色が変わる光合成ペンダント（左上図）、●回すと色が変わって見えるCD独楽（左中図）、●光の万華鏡～レインボースコープ～（左下図）、●チリモン探し～今日はお家で臨海実習、●煮干しの解剖●手作りトランペットで学ぶ金管楽器の物理学、●忍者のような放射線～その正体を見破ってやろう～、等々約20種のプログラムを用意している。

これらの講座は好意的に受け入れられており、学内外において年間10回以上実施している。地域のネットワークで話題になっているのか、県内各地の公民館や子供会などからも問い合わせがあり、出かけている。科学する心を芽生えさせ育む場として、一定の需要がある証であろう。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

実践の記録が物語るように、理科実験教室や科学工作教室の需要はある。ここに示した企画群を教育系の研究者や教材会社の開発者らと協同し、教育効果の検証やより良い構成への改良、低価格のキット化、さらには現場の声を吸い上げて新たな企画の創出につなげたい。「身の回りの科学技術」に関心を持たせ、広く「科学的リテラシー」の向上に貢献できれば幸いである。

知的財産・論文・学会発表など

- 梶谷正行（2020）：理科好きを育てよう！～簡単な観察・実験で、五感に訴える体験を～、下野教育（栃木県連合教育会）、第765号、12-17.
- 梶谷正行（2019）：教材「オリガミバード」の進化の傾向、日本生物教育会第74回全国大会（岡山）
- 梶谷正行（2019）：架空生物「オリガミバード」による生物進化の疑似体験系～教材としての有用性、さらに進化の究極系を求めて～、帝京大学ラーニングテクノロジー開発室年報、第16巻、95-101.

バーチャルスライドを用いた 病理組織実習の実施



医療技術学部・臨床検査学科 教授

望月 眞

MOCHIZUKI, Makoto

教育

URL : <http://imcjfc.web.fc2.com/i/index.html>

板橋キャンパス

キーワード：病理学、病理組織実習、バーチャルスライド

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

2017年度の臨床検査学科の病理組織実習をバーチャルスライドで行った。

バーチャルスライドは、顕微鏡観察用のガラス標本をバーチャルスライドスキャナー（浜松ホトニクス）でデジタルデータとしたものである。学生は、PC ルームのパソコン上で、専用のブラウザを使用して、デジタル化された組織標本を観察した。

顕微鏡実習をバーチャルスライドで行う利点は以下のようなものである。

1. 実習用にガラススライドを人数分作成する必要がなく、実際の診断に用いられ、匿名化されたガラススライド1枚をスキャナーにかけるだけである。21 時限の実習で、92 症例 288 枚のガラススライドの観察を行えた。
2. ガラススライドのように割れたり退色することなく、管理が簡便である。
3. パソコンのディスプレイ上の説明だと観察するポイントを学生が理解しやすい。
4. パソコンのディスプレイ上で多数のスライドを同時に観察でき、染色の差などが理解しやすい。
5. 92 症例 288 枚のガラススライドのデータは 116GB で、これはブルーレイディスク 6 枚分である。バーチャルスライドはガラススライドを共有しての多施設での教育の均てん化に有用な手法である。

以前の顕微鏡実習に劣る点として、顕微鏡操作の練習にならないこと、ガラススライドを顕微鏡で観察した方が画像がきれいなおことがあり、組織解剖実習では顕微鏡観察による実習を継続している。

今後、教材用スライドを厳選し、よりよい教材としていきたい。



教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

病理組織像のアトラスは多数の書籍が出版され、ウェブサイト上で構築されたシリーズも多いが、バーチャルスライドを教材として配布する試みは少ない。実習用の良い教材を求めるニーズは多く、現在当大学の実習用教材は有志に対して無料で配布されているが、ビジネスとしての展開も考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会（2018 年 8 月 北海道）で発表された。

・指導・教育的観点での実践的な運動・スポーツ指導の研究
・運動実践者のニーズに応じた運動・スポーツの研究



医療技術学部・スポーツ医療学科 健康スポーツコース 講師

永島 昇太郎 NAGASHIMA, Shoutarou

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.5ad152790a41e0c0.html>

教育

八王子キャンパス

キーワード：保健体育科教育、運動方法、コーチング、運動指導、体験活動

研究の概要

※ゼミ活動

スポーツや運動を自らが実践していくことはもとより、それらを指導者や教育者として他者に伝え、「健康」や「生涯スポーツ」に寄与できる力の基礎・基本の確立をめざすための研究をしている。そのため、実際の教育現場やスポーツの場面との連携を図り、現場に即した経験を積み重ねるプログラムを実施して、指導現場での実践力・行動力を培かう活動を行っている。

※保健体育科教育

教育現場での保健体育科教員の職務・役割について探求し、教育者として必要な資質能力が、有機的に統合、形成するための指導をすすめて、保健体育科の教育者になる上での課題の明確化し、その解決に向けた取り組みを指導している。



※コーチング・運動指導

専門種目である陸上競技について、学校教育および地域でのスポーツ活動の指導に必要な理論と技術、指導法を模擬授業などの実践的な学習により習得することをめざし、「基本となる理論・技術」、「安全管理（事故防止、危険回避）も含めた指導方法」および、「発達・学習段階に応じたトレーニングの方法の理解と実践」、「指導上の留意点や配慮事項の考慮、技術指導のための模範」についての研究をしている。また、「体験活動」に視点を置いた「野外活動」の在り方についても研究を進め、学校体育で求められる指導の在り方について探求を進めている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

実学の観点から、実践的実習経験をするために、夏季に神津島、冬季に越後中里で合宿を行っている。これらの合宿の実施にあたっては、事前の企画・準備や、実際の運営・実施について、学生自らが活動をするようにし、総合的な学習活動の機会として取り組むことによって、体育・スポーツの指導者としての在り方の探求に寄与している。

また実際の内容の中の一つに、地域の中学・高校生へのスポーツ指導及び、スポーツ交流の取り組みなどをおこなっており、好評を得ている。

知的財産・論文・学会発表など

著書

- ・専門教養 Build Up シリーズ④中高保健体育の完全攻略〈2024 年度版〉 時事通信出版局

論文

- ・青少年専門の体験活動などに関する実地調査から見た「青少年の生活体験の現状」と「青少年の意識」の関係についての学年特徴と影響の検討 帝京大学スポーツ医療研究 第 10 巻 p.21-30
- ・離島での野外活動と中・高校生へのスポーツ指導の実施による、体育・スポーツ指導者育成の総合的なプログラム 帝京大学高等教育開発センターフォーラム Vol.7 p.81-85

学会発表

- ・修正ボルグスケールと血中乳酸値の関係からみた断続的な息こらえ潜水の運動強度について 第 11 回海洋人間学会発表
- ・成人男性を対象とした息こらえ潜水の生理学的な影響～被験者のプロフィールによる検討～日本野外教育学会 第 25 回大会発表

学生によるシナリオ作成を導入した シミュレーション演習の教育的効果の検証



医療技術学部・スポーツ医療学科 救急救命士コース 准教授
高梨 利満 TAKANASHI, Toshimitsu

教育

橋樑キャンパス

キーワード：シミュレーション実習、アクティブラーニング、シナリオ

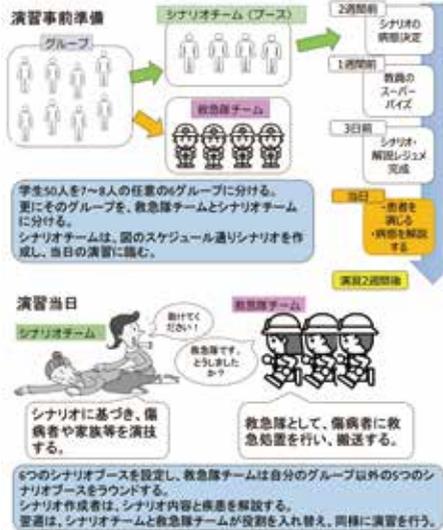
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

大学における救急救命士（以下 救命士）養成課程の実習には学外で行う救急車同乗実習以外に、不足する現場経験を補う学内での実習が重要となる。学内実習では、救急現場をイメージするシナリオを使用したシミュレーション演習を実施するが、大多数の救命士養成施設のシミュレーション演習は、教員が作成したシナリオを用いて行われている。しかし、本学救急救命士コースでは、2015年度以降、学生自身がシナリオを作成し、患者、救命士、患者の家族などの役を演技し、シナリオを解説するシミュレーション演習を実施してきた。

本研究は、学生によるシナリオ作成を導入した事による教育的効果を、データに基づいて検証することとする。

手続き



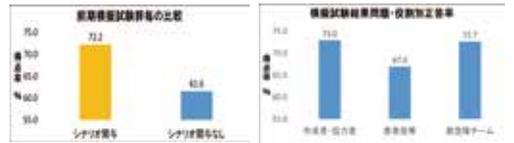
演習当日タイムスケジュール

開始	終了	内容	1ブース	2ブース	3ブース	4ブース	5ブース	6ブース
9:00	9:40				移動・準備			
9:40	10:00	実習	6班	1班	2班	3班	4班	5班
10:00	10:20	FB						
10:20	10:40				移動・準備			
10:40	11:00	実習	5班	6班	1班	2班	3班	4班
11:00	11:20	FB						
11:20	11:40				移動・準備			
11:40	12:00	実習	4班	5班	6班	1班	2班	3班
12:00	12:20	FB						
12:20	13:00				屋舎準備			
13:00	13:30				準備			
13:30	13:50	実習	3班	4班	5班	6班	1班	2班
13:50	14:10	FB						
14:10	14:30				移動			
14:30	14:50	実習	2班	3班	4班	5班	6班	1班
14:50	15:10	FB						
15:10	15:50				資機材搬取			
15:50	16:20				班ごとの振り返り・ミーティング			
16:20	16:35				伝達事項・終了			

効果の確認（確認試験の実施）

演習終了後、作成したシナリオに酷似した国家試験問題をピックアップし出題。実習の役割毎に解答を分析した。

模擬試験結果



シナリオ関与と関与なしではt検定の結果、分散が等しくないと仮定した2標本による検定で行ったところ、両側でP=0.02であり、有意な結果であった。また、役割別では作成に関与した学生の正答率が高かった。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究では、学生自身が疾患を調べシナリオ作りを実施し解説を行うアクティブラーニングである。同様の研究はあるもののデータベースで検証している文献は見当たらず、本学独自の研究となる。

医学教育における アクティブ・ラーニング法の活用



医療技術学部・スポーツ医療学科 救急救命士コース 准教授

藤崎 竜一 FUJISAKI, Ryuichi

教育

板橋キャンパス

キーワード：医学教育、アクティブ・ラーニング、ピア評価

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

高等教育における講義形式が教師中心からアクティブ・ラーニング法を活用した学習者中心へと移行していく中で、評価方法も教師が学習者に対して行うものから、自己評価や学習者同士がお互いに評価しあうピア評価などへと多様化し、看護学部などでは論述式試験や問題解決型学習にピア評価を導入する検討が行われている。

一方、パラメディカルコースである救急救命士コースにおいて学習者同士のピア評価を本格的に導入している事例はない。また、そのピア評価が講義の成績を決定する総括的評価の一部として用いられている試みもない。そこで2013年度より、救急救命士コースの一部の講義に導入されているピア評価に対して、学習者がどのように受け止めているのか、またピア評価の妥当性についてアンケート調査を実施した。その結果、学生の学習意欲と学習効果に正の相関を認め、学生全体でも学習に対するモチベーションの高まり、自発的な学習態度が促進された。



参考資料を選ぶ学生たち



場所を問わず議論する学生たち

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本講義形式をマニュアル化することにより医学教育分野のように本来、教育学を専門としていない教員が多い高等教育機関でも、学生に効果的な教育が可能となる。具体的には学生が実践に近いシミュレーションを作成し発表しあう。その発表に講師は専門分野のスキルを活かし介入して、学生の対応力を試す。評価は学生同士のピア評価を利用する。そのことにより学生は強いモチベーションを保ちながら能動的に学習し、講師は実際の現場を再現することが中心となるため「教育の専門家」でなくとも、学習効果の高い講義を容易に行う事が出来るようになる。本講義形式をベースに他学部、他業種に講義法を提案し、短期間でより実践力のある人材育成につなげたい。

知的財産・論文・学会発表など

藤崎 竜一、高柳 妙子、榎村 浩一：救命救急士コースにおける疾患を理解するためのアクティブ・ラーニングの実施：講義の取り組みと学習効果に関する検証. 医学教育：49(4)：341-346,2018.

当事者意識に基づき持続可能な社会をめざす 「学際的な放射線教育」に関する質的研究



医療技術学部・柔道整復学科 特任教授

古家 正暢 FURUYA, Masanobu

教育

宇都宮キャンパス

キーワード：ダイアログ、犠牲のシステム、学際的な放射線教育、ESD

SDGs 目標 7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

SDGs 目標 12：つくる責任、つかう責任

研究の概要

〔目的〕

東日本大震災による福島第一原子力発電所の過酷事故以降、放射線教育はどうあるべきかが問われている。そこで、本研究では、社会・理科・総合的な学習の時間を統合する学際的な学びに挑戦し、当事者意識に基づき持続可能な社会をめざす新たな放射線教育に挑戦する。この学びでは、放射線に対する正しい基礎知識のもとに、現地フィールドワークおよび多様な人々との「対話」を経て、科学的根拠に基づいた自分の「意見を表明する力」と「学びに向かう力」とを身につける。

〔方法〕

社会科では原発の歴史や地域の変化。理科では核融合・放射線・原発に関する基礎知識。総合的な学習の時間では、意見や立場の異なる人々（研究者・福島・下北半島の同世代の子どもたち等）との「対話」を実施する。また、福島第一原発・六ヶ所原子力関連施設等のフィールドワークを行い、生徒主体のワールドカフェ方式によるダイアログサミットを開催する。

問題の所在

高校生が「原子力発電」に関する研究発表をしようとしたところ、東京都教育委員会は「東京都は、3.11被災家族の受け入れを行っており、原子力発電に関するスライドは、あの事故を想起させてしまうのではないかと危惧している。原子力発電に関するスライドを削除していただけないか」と回答してきたという。このような全く教育的でない「忖度」は断じて許してはならないと考える。

希望する連携分野

- リスクコミュニケーション
- 放射線医学（放射線と「がん」との関連）
- 質的研究（結果の普遍性への疑問に対して）

研究概要の模式図



現在の研究 その他

現在の研究パートナー

- 澤田哲生 東京工業大学 核融合・放射線・原子力発電
- 永田佳之 聖心女子大学 ESD(持続可能な開発のための教育)
- 鮫島朋美 東京学芸大学附属国際中等教育学校 理科教育 化学教育

〔メッセージ〕

未来を拓く子どもたちに、立ち止まって考えさせる機会をつくりたい。安易に「しかたない」というコトバを使わない社会を築きたい。多面的・多角的に考察するために多様な人々と出会い、ダイアログ「対話」の重要性を訴えていきたいと考えています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

持続可能な開発目標（SDGs）の⑦には「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」とある。資源小国：日本にあって、今後のエネルギー政策は、どうあるべきか、原発再稼働賛成・反対の立場を超えて客観的事実をしっかりと学び相互理解を深めていくための対話（ダイアログ）の重要性を深く考える。

高レベル放射性廃棄物を安全に地層処分するための基盤的な研究施設「超深地層研究所」を高校生と共に訪問し、同世代の子どもたちや関係する地域の人々との「対話」を実施する。

知的財産・論文・学会発表など

国際バカロレア教育フォーラム 2018 於：玉川大学 「理科&社会の視点から捉える持続可能な社会のあり方」

TEA とイマジネーションが拓く文化を創造する 看護教員の力量形成プログラム開発



福岡医療技術学部・看護学科 講師

田中 千尋

TANAKA, Chihiro

URL : <https://researchmap.jp/chi119>

教育

福岡キャンパス

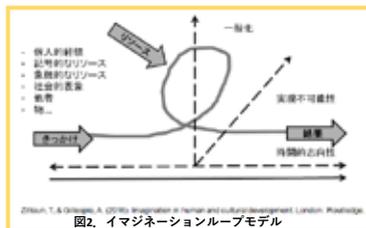
キーワード：看護教育学、文化心理学、教師の成長、力量形成、複線径路等至性アプローチ

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

本研究の目的は、**過去に受けた教育・経験、現在のしがらみに囚われず、未来像から逆算して看護教育ができる人材を育てるプログラムを開発することである。**そのために①国内外の看護教員の力量形成に関する文献調査により課題を明確にし、複線径路等至性アプローチ（以下；TEA）を分析手法に用い看護教員の力量形成プロセスを解明②さらにその分岐点をイマジネーションループモデルで解明し、③社会・文化的側面も含めた看護教員の力量形成プログラムを開発する。



TEA の概念ツールは文化心理学に由来し、記号やイマジネーションにより「いま・ここ・わたし」のあり様をふまえた上でその現象を俯瞰し、そこから離れ、未来を展望することができる。ゆえに、**TEA とイマジネーションが拓くのは、社会・文化的文脈の中に意味を創造する看護教員の姿である。**この知見からプログラムを開発することで、しがらみに囚われず新たな文化を創造する看護教員の力量形成向上が期待できる。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

TEA は、Semiotic Medication（記号による調整）こそが文化である¹⁾ という記号論的文化心理学に依拠しており、看護教員の複線の多様な力量形成のあり様を、社会や文化の影響を含めた時間経過のなかで解明する点が本研究の独創的な点である。本研究の結果は、これまでの先行研究にみられる**部分的で断片的な見方ではなく、社会・文化的側面も含めた力量形成プロセスの解明につながる。**さらにイマジネーションループモデルで分析することにより、未来の複数の選択肢を探る可能性を秘め、新たな文化を創造しているあり様から力量形成プログラムの開発へと発展的にすすめる点が創造的な点であるといえる。

1) Valsiner, J.(2007) Culture in Minds and Societies : Foundations of cultural Psychology .SAGE. (ヴァルシナー J. (2013). 新しい文化心理学の構築—心と社会の中の文化（サトウタツヤ、監訳）. 新曜社.

知的財産・論文・学会発表など

- 1) 田中千尋, サトウタツヤ, 土元哲平, 宮下太陽. (2022). TEA 複線径路等至性アプローチにみる看護教員の力量形成プロセス—臨床現場から立ち上がった問いと対峙し続ける教員の語りから. 質的心理学研究, 第 20 号臨時集, No.20, S213-S220.
- 2) 田中千尋, サトウタツヤ (2020). 看護専門学校に所属する看護教員の力量形成過程—中堅期にある教員の語りから—. 看護教育研究学会誌, 12 巻 2 号, 13-24.
- 3) 田中千尋 (2018). 看護系大学に所属する新人看護教員の力量形成の様相, 日本医学看護学教育学会誌, 27-2, P21-28.
- 4) 田中千尋, 岡崎美智子 (2016). 経験の語りにおける熟達看護教員の力量形成過程. 日本看護学教育学会誌第 26 巻第 2 号 P29-41.

東アジアにおける学校改革に関する研究



帝京大学短期大学 現代ビジネス学科 准教授

申 智媛

SHIN, Jiwon

教育

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.841edfe101344575.html>

八王子キャンパス

キーワード：日本と韓国の学校改革、教師文化、東アジアの学校

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

(1) 韓国における現代学校改革研究

韓国が社会的、政治的な民主化を迎えた 1990 年代から現在に至るまでの、韓国の学校改革の動向と特徴に注目した研究を進めてきた。植民地期や軍事独裁期など過去の長い期間、教師の自主的な教育的活動が制限されてきた韓国の学校の中で、教師の教育活動に対する意志や声がどのように復権していくのか、その可能性と困難を、韓国における教師が中心となった学校改革の具体的な実践を辿ることで明らかにしてきた。



(2) アジアにおける教師を中心とした学校改革の国際比較研究

近年東アジア諸国の学校教育が歴史的な転換点に立っているという認識から、日本、中国、韓国、台湾、シンガポールにおいて、民主主義的で対話的な学校をめざし改革を支援している研究者とネットワークを形成し、東アジアの学校が直面している共通の課題と、それぞれの地域の教師たちが行う特有の改革実践の様相を描いてきた。



(3) 東アジアの学校の文脈における「一人も残らず教師と子どもが学び合い、成長できる学校文化の創造」に向けて

東アジアの地域の学校は競争主義や受験中心主義、効率を中心とした画一的な学校文化の土壌を共有している側面があり、近年では、グローバル化、少子化、格差社会など現代的な課題に直面する中で、いかに民主主義的で質の高い学校教育を提供してしていくのかという共通の課題を持っている。実際の、具体的な学校と教室の中でこの課題にどう向き合っているのか、常に学校現場と教師の声に耳を傾けながら研究をすすめていく。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「学校」という場は、誰もが当事者の経験を持つ場所であり、学校の問題は「自分と関係ない」とは言えない、人々の生活や人生と密接にかかわる問題である。学校を教師と子どもの学びと成長のためにどのようによくしていくか、という本研究課題は、産業界に直接かわりが見えるかもしれないが、実際の私たちの生活と未来に直結する課題である。また、教職課程の授業を担当している私が、教職を志している学生に、教職の魅力と学校づくり・授業づくりの楽しさを伝えていくこと、学校教育の大切さを伝えていくことが、そのものが、実際の学問につながると信じている。

知的財産・論文・学会発表など

- ・上野正道、北田佳子、申智媛、齊藤英介編著『東アジアの未来をひらく学校改革—展望と挑戦—』2014年10月、北大路書房
- ・和井田清司、張建、牛志奎、申智媛、林明煥編著『東アジアの学校教育』2014年3月、三恵社
- ・Jiwon Shin & Woojung Son, School reform practices through building learning community in Korea in *Lesson Study and Schools as Learning Communities: Asian School Reform in Theory and Practice (Routledge Critical Studies in Asian Education)*, 2018, Routledge
- ・申智媛『韓国の現代学校改革研究—1990年代後半の教師たちを中心とした新しい学校づくり—』2019年3月、東信堂
- ・Jiwon Shin, The case of School reform in South Korea: seeking innovaion of school culture in *School reform and Democracy in East Asia (Routledge Seives on School and Schooling in Asia)*, 2020, Routledge
- ・申智媛「ポストコロナ時代の日韓の教育交流に向けて」2022年6月。『日韓文化交流基金NEWS』No.98, p.3

「ライフデザイン演習」におけるリーダーシップ教育研究 ～「全員発揮のリーダーシップ」論に注目して～



帝京大学短期大学 現代ビジネス学科 教授

杉坂 郁子 SUGISAKA, Ikuko

URL : <https://researchmap.jp/ikko1216>

教育

八王子キャンパス

キーワード：リーダーシップ教育、コミュニケーション力、主体的に考え動く

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

世界規模での急速な変化に対応していくためには、今後、従来型の「権限があることだけを前提にしたリーダーシップ」から、「権限がない自然発生的なリーダーシップ」、「全員が発揮するリーダーシップ」が求められる時代になっていくことが予想される。学生が、この「権限によらないリーダーシップ」について理解し、そのスキルを身に付けるための教材開発と授業実践を行い、その成果を検証した。



導入部分では、与えられたテーマに対し、グループ内の「一人ひとりが、成果を生み出すために何らかの形で影響を与え、貢献する」ためのゲームを行った。



「大学生生活で困っていることを解決しよう」をテーマに、グループごとに解決したい問題を出し、その解決方法について話し合い、まとめた結果を発表した。

「全員発揮のリーダーシップ」では、「フィードバックし合う文化」の醸成が必要であり、そのためには、組織に対する安心感や信頼関係を築くためのコミュニケーション力の向上も重要なポイントとなる。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

これからの社会で通用する、社会に貢献できる人材の育成

- ＊社会の変化に対応できるリーダーシップの態度とスキルを身に付ける。
- ＊本来の意味の「コミュニケーション力」を身に付ける。

単に明るく元気なことだけでなく、他人の話に耳を傾け、互いに聴き合い理解できる関係を築ける力を養うことにより、チームで働ける人材を育てる。

知的財産・論文・学会発表など

- 論文 申 智媛 『「ライフデザイン演習」におけるリーダーシップ教育の実践』
～「全員発揮のリーダーシップ」論に注目して～ 帝京大学短期大学紀要第 42 号
- 申 智媛 『授業における学生の聴き合う関係の構築に関する実践研究』
～学生のコミュニケーションの特徴に注目して～ 帝京大学短期大学紀要第 39 号

電子書籍の多読による 英語読解力向上プログラム



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 講師

須賀 晴美

SUGA, Harumi

教育

URL: <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.bcdfd9113c4d3f8f.html>

宇都宮キャンパス

キーワード：英語教育、リーディング、多読、電子書籍、情動変数

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

研究の概要

習熟度に差のある学生をすべて満足させる英語教授法は少ないですが、その数少ない方法の一つが Extensive Reading (ER; 多読) であると考えています。多読は読解力の向上を目指し、もともと紙媒体の書籍を利用して行われていましたが、最近のオンライン学習システムの急速な発達により、電子書籍による多読を行うことがより容易になりました。加えて教員用の管理画面も進歩したので、学生の読書記録を把握して研究を行うことが楽に出来るようになりました。

学生の習熟度の幅に合ったオンライン図書館を選び、授業内 / 外で学生の興味と習熟度にあった本を選ばせ、読書をさせます。この際、辞書を引かなくとも読める難易度の本を選ばせ、大量に読む練習をさせることが、習熟度向上のポイントだと考えます。

読了すべき目標語数を提示し、読んだ語数に関して学生同士で適度な競争をさせると、着実に習熟度が上がることが述べ3年間の研究で検証されました。(習熟度テストの平均点が統計的に有意に向上しました。)

多読の原則としては、読書中に学生からの質問がない限り、教員はほとんどサポートしないことになっています。けれども教員の介入の仕方や設定を変えることで、プログラムの問題点を改善し、さらに向上の度合いを上げられるかに関して、研究を継続していきたいと思えます。



太陽系を紹介する本の1ページ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

英語教育学は本来実学なので、実際に本研究の手順に従って大学生が学修すれば、標準的な週1回の授業を受講することで、研究データのように読解力のみならず、聴解力も確実に向上することが期待されます。そのうえ、英語を学ぶことは、産業と技術革新の理解と発信につながる言語の基盤を作ることになります。

社会人が学ぶ場合には、専門分野に関してはコミュニケーションに困らないが、世間話は苦手という方にこの学習法をお勧めします。多読図書は幅広い話題をカバーしており、基本的な口語表現を多く含んでいるからです。オンライン図書館の電子書籍を使うので、電子端末があれば、勉強する場所を選びません。iPhoneを用意すれば通勤途中でも音声が開けます。

知的財産・論文・学会発表など

論文発表 (最新の研究成果)

- ・須賀晴美 (2022a). 「競争的要素を取り入れた大学生の電子書籍の多読指導」、『帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編』、第28号、51-76。
- ・Suga, H. (2022b). A two-semester e-book extensive reading program for university EFL learners applying the principle of competition by incorporating reading quizzes. *Utsunomiya Campus, Teikyo University Annual Reports of the Humanities*, 28(6), 77-98.

学会発表 (最新の研究成果)

- ・Suga, H. (2022c, August 5-7). *An e-book extensive reading program motivating university EFL learners by competition. Extensive Reading Around the World 2022*, online.
- ・須賀晴美 (2022d, 8月22日). 「クラスメートの存在を意識させた大学生の電子書籍の多読指導」、日本多読学会、2022年度年会、オンライン。

大学の IR 実務を通じたデータ共有手法の検討



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 講師

守 一介

MORI, Kazuyuki

URL : <https://researchmap.jp/kazuyukimori>

教育

宇都宮キャンパス

キーワード：Institutional Research、内部質保証、教育学

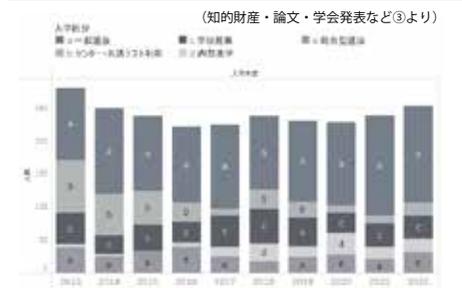
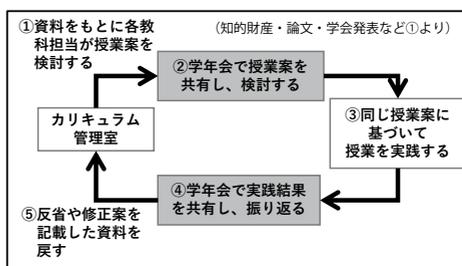
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

教育機関には、教育の質を高めるための仕組みが存在しますが、その内容は組織によって異なります。例えば、ある小学校では、学年の担任教師が集まる毎週の学年会において、授業の計画や振り返りを協働で検討することが仕組み化されています。以前の研究では、その協働的な計画や振り返りの現場を観察し、対象校の教師たちが児童の状態や、指導についてどのように考えているかを会議の逐語録を分析して検討しました。

近年、大学では政策主導で IR (Institutional Research) の導入が進められてきています。IR は教育、研究、組織運営に関するデータの収集、分析、報告、公開する活動で、特に教育面の調査分析を通じて、教育の質向上に資する意思決定の支援が期待されています。IR の実務担当者として、教育改善を目的としたデータ分析結果の学内外への共有・公開を進めています。

これらを統合した研究として、教育機関の仕組みに沿って、どのようなデータを示すことが、教育の質向上に向けた意思決定への効果が高いのかを検討しています。経年の入学学生数など、大学に共通して必要な情報の他に、退学者数やその要因など、各大学の状況に合わせて検討すべき指標があり、仕組みの中で適切に共有されることによって、施策の検討などに役立つことが考えられます。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

大学の学内外へ IR の分析結果を共有・公開するにあたって、複雑な分析はかえって理解されにくい状況を生む場合もあります。データの加工や可視化、共有に優れた BI (Business Intelligence) ツールも活用しながら、教育の質向上に向けた組織のデータ活用の風土醸成に貢献しつつ、研究として進めていければと考えております。

知的財産・論文・学会発表など

- ① 守一介・野嶋栄一郎 (2021) 小学校の学年会における学年主任の関わり方に関する事例研究. 人間科学研究, 34 巻 2 号, pp.59-71
- ② 守一介・野嶋栄一郎 (2021) 児童が発言できることと他の児童の発言を聴けることを目指した話し合い指導に関する検討内容の分析 - 館山市立北条小学校 1 年生の学年会の事例研究 -. 人間科学研究, 34 巻 2 号, pp.31-43
- ③ 守一介 (2022) 大学の IR の実務における BI ツールの効果的・効率的な活用方法に関する一考察. 帝京大学宇都宮キャンパス年報人文編, 第 28 号, pp.129-142

理工系大学生の適職発見のための Web システムの開発



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 特任教授 (主任)

横山 明子 YOKOYAMA, Akiko

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.6fd31c4d12483cbb.html>

教育

宇都宮キャンパス

キーワード：大学生、職業選択、支援システム、適性診断

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

大学生にとって、職業選択を視野に入れて将来のキャリアを考えることは、重要な発達課題である。近年、インターネットによる就職活動が主流になり、多種類で大量の情報が学生に直接提供されている。そのため、情報の検索条件に優先順位をつけずに漫然と検索すると、予期しない情報が大量に提示され、選択に有用な情報を得ることができず、混乱をきたす学生が多くいる。

このような問題を抱えた、特に理工系学生の職業選択と決定を支援するために、理工系学生に特化した職業情報データベースを提供する Web システムを開発することが急務であると考え、新たに適性診断と広範な職業データベースの検索機能を備えた Web システムを構築し、有効性の検討を行っている。

なお、本研究は、理工学部情報電子工学科の荒井正之教授との共同研究である。

開発した Web システムの構成について

職業興味によって職種を検索できるような機能を持つシステムであり、構成と画面遷移については、右図に示すとおりである。

【職業情報の検索】

VPI 職業興味テストの 6 種類 (RIASEC) の得点を入力すると、この得点の全ての情報を用いて類似度の近い職種のうち、最終的に 10 種類を出力する。出力結果の保存機能がある。

- ・職種レベル：大卒程度と大学院卒レベルがある。
- ・専門分野の選択：33 種類の専門分野のうち、自分が職業選択に生かしたいと思う分野を 3 種類選択することができる。

【システムが提供する情報】

10 種類の職種ごとに、「職務内容」、「活躍できる産業分野」「要求されるスキル」の詳細情報が表示される。

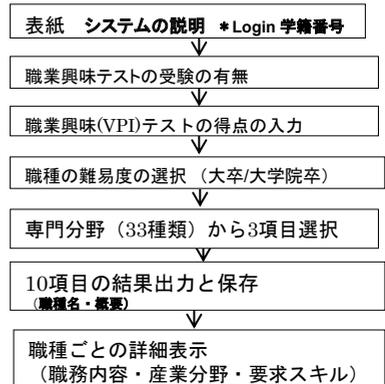


図 開発したシステムの画面の遷移図

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

国内では、未だこのような理工系大学生向けの本格的なデータベースを備えた Web 支援システムは実現されていない。このシステムが本格的に移働できれば、学生は独力で職業選択を行うことができるようになり、これまでキャリアカウンセラーの力量に左右されていたキャリアガイダンス (就職支援) の在り方を一新するという教育的意義が非常に大きい。

今後さらに、この Web システムが提示する職業データの種類を、理系に特化せずに広範囲の職業データベースを実装し提供することにより、様々な学部の大学生が職業選択に利用できるさらに実用性の高いシステムに発展することが期待できる。

知的財産・論文・学会発表など

Akiko YOKOYAMA 2015 Design of Computerized Guidance System for Career Planning IAEVG (国際キャリア教育学会) 横山明子・荒井正之・前川司 2017 理工系大学生の職業選択のための支援システムの開発、帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編 第 23 号, pp.73-196.

本研究は、JSPS 科研費 (基盤研究 C 課題番号 JP 19K03064 (研究期間 2019 年度～ 2022 年度)) の助成を受けている。

ファシリテーションの社会課題への応用 — EdTech、戦死者、伝統校 —



共通教育センター 教授

井上 義和

INOUE, Yoshikazu

教育

八王子キャンパス

キーワード：ファシリテーション、社会課題、EdTech、戦死者、伝統校

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

異なる立場や考え方の人びとをつなぎ、対話を促す「ファシリテーション」の取り組みをさまざまな研究分野でおこなっています。

まず、共編著『ファシリテーションとは何か』(④)では、ワークショップや人材開発・組織開発、熟議民主主義、アクティブラーニングなどさまざまな領域を横断して「ファシリテーションが要請される時代」を捉えました。

そのうえで、ファシリテーションを社会課題に応用する試みとして次の3つの領域で研究をおこなってきました。

- (1) 公教育と民間教育について。2010年代以降、民間教育での発展をふまえて国策化したEdTechについて、経済産業省の担当課長へのインタビューをコーディネートして解説記事とともに総合雑誌に掲載しました(⑤)。
- (2) 戦死者の社会的受容について。従来の戦争責任や靖国問題などにみられる左右対立から外に出るために、自己啓発的アプローチ(⑥)と歴史観光的アプローチ(②)という第三のフィールドを開拓し、戦死者とつながる時代と空間を捉えます(③)。
- (3) 地方公立伝統校について。バンカラな伝統行事がパワハラとして問題視される時代である。長野県松本深志高校をフィールドとして高校側と研究者による共同研究において、市民派と伝統派の対話を促すという観点から成果まとめをコーディネートしました(①)。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- ・ 調停困難な対立を解きほぐし、対話や協働の土台をつくります。
- ・ 社会課題のフィールドにあわせて柔軟にファシリテートします。

知的財産・論文・学会発表など

- ①井上義和・加藤善子編、2023【予定】『深志の自治—地方公立伝統校の危機と挑戦』信濃毎日新聞社。
- ②井上義和、2022「祖国と慰霊を考える『三社参り』—九段・市ヶ谷・千鳥ヶ淵(特攻文学を読むVo.1)」インターネット論壇ことのは、8月15日終戦特番。
- ③井上義和、2022「戦死者とつながる時代」『ひらく』7号 pp.97-104。
- ④井上義和・牧野智和編、2021『ファシリテーションとは何か—コミュニケーション幻想を超えて』ナカニシヤ出版。
- ⑤浅野大介(聞き手：井上義和)、2021「なぜ経産省は教育に乗り出したのか」、井上義和「解説 政策過程から読み取るべき官僚たちの動きと改革への意志」『中央公論』2021年12月号, pp.120-132。
- ⑥井上義和、2021『特攻文学論』創元社。

人生 100 年時代の生涯学習社会デザイン



共通教育センター 准教授

森 玲奈

MORI, Reina

URL : <http://harinezuminomori.net/>

教育

八王子キャンパス

キーワード：生涯学習、成人教育、エイジング、ワークショップ

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

学び続ける人とそれを包み込む社会に関心を持ち、ワークショップ、カフェイベント、プロジェクト型学習の研究を中心に、生涯学習に関する研究と実践を続けています。

2013 年からは、「『ラーニングフルエイジング』プロジェクト」を立ち上げ、国内外でのフィールドワーク、アクションリサーチ等により、40 歳からの学びを積極的に支援しています。「ラーニングフルエイジング」とは、学ぶことと年をとることを組み合わせた造語であり、いつでもどんなときも学び続ける成人像が背景にあります。本プロジェクトでは、エイジング（個人の加齢、社会の高齢化）に関する諸問題を、生涯学習の課題として捉え、研究・実践を行うことを目的としています。多世代が共生すること、1 人であるより誰かといふことが沢山の学びを生み出すエンジンになる、そんな学び溢れる「ラーニングフルな社会」を創るというビジョンに向け、真摯に取り組んでいけたらと考えています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

いかにしてサステイナブルな創造的学習環境をデザインできるかを念頭に、これまで多くの企業、法人、行政組織との共同研究・共同開発を行ってきました。今後は特に、(1) 課題に合わせたワークショップ開発及び評価と運営者育成、(2) 超高齢社会に向けた学習環境デザイン、(3) 人生 100 年時代におけるライフデザイン・キャリア支援教育、といったテーマを扱っていければと考えています。これまで関わらせていただいた団体を下記に一部挙げさせていただきます。

医療法人医風会、株式会社 SCSK ホールディングス、株式会社 KDDI 総合研究所、株式会社電通、株式会社博報堂、株式会社読売広告社、気象庁、ココヨ株式会社、新日鉄興和不動産株式会社、総務省（五十音順）

知的財産・論文・学会発表など

- ◆ 2008 年度日本教育工学会研究奨励賞受賞
- ◆ 2021 年度社会言語科学会徳川宗賢賞萌芽賞（「高齢者のノンフォーマル学習環境デザインに向けたアクションリサーチ：地域と大学との連携に着眼して」）
- ◆ 日本学術振興会社会技術開発センター研究開発領域「持続可能な多世代共創社会のデザイン」プロジェクト企画調査「多世代で共に創る学習プログラム開発の検討」代表

文脈理解可能な「AI 話しことばチェッカー」 開発および知的学習支援システムへの拡張



高等教育開発センター 講師

山下 由美子 YAMASHITA, Yumiko

URL : <https://researchmap.jp/7000004235>

教育

八王子キャンパス

キーワード：話し言葉、レポート、学習支援システム、文章校正ツール

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

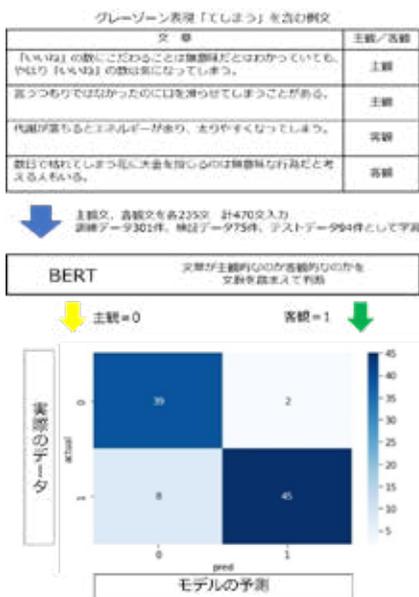
研究の概要

学生が提出前に自身のレポート内の話し言葉をチェックし、ヒントを基に適切な学術表現を使用できることを目的とした「話しことばチェッカー」を開発した。これは、判定対象の文章内に含まれる話し言葉を検出し、修正文例を提示する機能を搭載した話し言葉検出システムである。

本システムを反復的に利用することで、話し言葉の知識を習得し学術表現のトレーニングとなり得ることが、実証実験の結果からも確認できた。しかし、現行のシステムには文脈によって話し言葉が否かが判断される可能性のある、あいまいな話し言葉（グレーゾーン）を識別できない問題が残っている。

現在の研究では、協調学習授業を一元的に管理できる学習支援システムを構築し、授業実践を通じてあいまいな話し言葉の効率的な抽出とともに教育的効果を検証する。その上で、授業実践で蓄積された大量のあいまいな話し言葉の事例データベースに機械学習を適用させ、文脈理解可能な「AI 話しことばチェッカー」を開発し、知的学習支援システムへの拡張を目指している。

※本研究は、JSPS 科研費 JP17H01841、JP22H03706 の助成を受けている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「話しことばチェッカー」の導入により、これまで教員個人の感覚に頼っていた話し言葉判定や指導に対して、授業モデルとそれを実現する学習支援システム上での実践により、共通した話し言葉の基準が提供できるようになる。また、教育現場において、一つの基準に基づいた学術文章指導や話し言葉に特化した文章校正ツールとして、高等教育のみならず中等教育や日本語非母語話者への日本語教育にも本学習支援システムが活用できるものと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

- 【著書】 山下由美子・中崎温子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩 (2017) 『大学生のための日本語問題集』ナカニシヤ出版
仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩 (2018) 『大学初年次における日本語教育の実践—大学における学習支援への挑戦 3』ナカニシヤ出版
- 【論文】 山下由美子長谷川哲生、山川広人、小松川浩 (2021) 「話しことばチェッカーの開発と評価」『教育システム情報学会誌』38 卷 4 号
山下由美子・川越颯亮・小松川浩・山川広人 (2022) 「学生レポートの話し言葉改善を目指したオンライン型協調学習の実践研究」『リメディア教育研究』第 16 号

シミュレーション医療教育開発



シミュレーション教育研究センター (TSERC) センター長
 医学部・救急医学講座 教授

金子 一郎 KANEKO, Ichiro

URL : <https://www.tserc-teikyo.com>

教育

板橋キャンパス

キーワード：シミュレーション医療教育、多職種連携教育、アウトカム基盤型医療教育

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

「すべては、患者さんのために」ーシミュレーション教育の充実をめざしてー

現在、シミュレーション医療教育は新たな教育方略として、多くの医療施設、大学、訓練機関などで開発、実施、研究されている。主体的な学習（試行錯誤）が学びにつながり、省察の実践、批評的思考をも学ぶことができる。シミュレーション医療教育を教育方略、教育評価の観点で、研究、および実践の対象としている。アウトカムについては、学修者評価のみならず、医療の恩恵を受ける患者アウトカムへの寄与を考察する。



TSERC main room

研究テーマ

シミュレーション医療教育

高機能シミュレーターによる学習方略

シミュレーション基盤型の学習評価

視聴覚支援デブリーフィング システムの開発

胸骨圧迫フィードバックデバイス

CVC トレーニングシステム開発

仮想患者シミュレーションソフトウェア

医療教育の標準化

インストラクショナルデザインに基づく設計

医療シミュレーションセンターの管理運営

Simulation-based medical education

Simulation-based learning strategy

Simulation-based learners' assessment

Video assisted debriefing system

CPR real-time feedback device

development of the CVC training system

Virtual patient simulation software

Standardization of medical training

Planning the lesson with Instruction design

Management of Medical Simulation Center

進行中の研究と企業

帝京大学ブランディング事業教育研究 (1) (2) (3)

シミュレーションセンターネットワーク構築 (4)

高機能患者シミュレーターの新シナリオの制作および実践研究 (1) (3)

クラウド型デブリーフィングシステムの運用研究 (1)

高機能評価型シミュレーターの研究 (2)

CVC 関連トレーニング開発 (5)

関連企業：(1) レールダルメディカルジャパン, (2) 京都科学, (3) Take The Wind, 内田洋行

(4) シミュレーション教育関連学会, (5) 日本コピディエン

知的財産・論文・学会発表など

- 医学部卒前医療シミュレーション教育における仮想患者シミュレーションソフトウェアの試用, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 8: 38-43, 2020.
- 国際医療シミュレーション学会 IMSH2020 (The International Meeting on Simulation in Healthcare 2020) 参加報告, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 8: 93-98, 2020.
- Credibility and Validity of the Blended Assessment for the Tracheal Intubation Skills of Undergraduate Medical School Students (Research Abstract), oral presentation at IMSH2020.

教育

Q-CPR™ マネキンを使用した胸骨圧迫パフォーマンスデータの解析と医療系学部での標準心肺蘇生授業の実施について



シミュレーション教育研究センター (TSERC) 講師

竹内 保男 TAKEUCHI, Yasuo

URL : <https://www.tserc-teikyoo.com>

教育

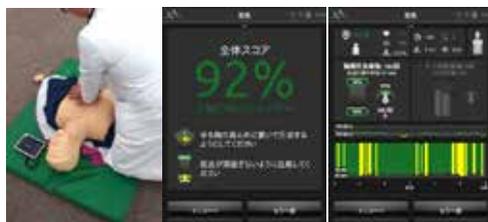
板橋キャンパス

キーワード：心肺蘇生教育、医療従事者トレーニング、シミュレーション医療教育

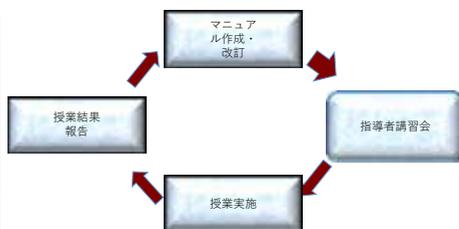
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

- 医学部学生に対する一次救命処置の実習では、技能の完全習得と客観的評価が求められている。2018年より本学で実施している医学部5年生の心肺蘇生実習では、教員の直接観察によるチェックリスト評価に加え Q-CPR マネキンを使用し、算出する胸骨圧迫総合スコアを到達目標として明示している。その実習の胸骨圧迫パフォーマンスの詳細データを抽出し、解析を行い、さらに手技の改善について考察を行なっている。
- また、シミュレーション教育研究センターでは、2015年より、医療系学部での心肺蘇生授業の質向上に取り組み、共通のプロトコールに基づいた標準授業を設計し実施している。定期的にマニュアルの改定を行い、指導者養成のための「BLS (Basic Life Support) 指導者講習会」を開催し、薬学部や医療技術学部の各医療系学部の教員が心肺蘇生授業を指導できるよう支援を行なっている。



Q-CPR マネキンと胸骨圧迫総合スコア



BLS指導者講習会のサイクル

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

一次救命処置の技能の習得は、医療系学部の学生だけでなく、医療系学部以外の学生にとっても、重要な課題である。これまでのシミュレーション教育研究センターでの、医療系学部での標準心肺蘇生授業の経験を生かし、医療系学部以外での授業設計を支援し、心肺蘇生授業を実施できるよう支援する。医療系学部以外の学生の一次救命処置の技能の習得は、院外で起こる突然の心停止傷病者の社会復帰に寄与できるものと考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

学会発表

- 竹内保男、丸山桂司、金子一郎：胸骨圧迫の客観評価を取り入れた教職大学院 BLS(Basic Life Support) セミナーの有効性について 第7回日本救護救急学会・学術集会
- 竹内保男、丸山桂司、大久保由美子、金子一郎、坂本哲也、森村尚登：時間経過による医学部学生の胸骨圧迫能力保持の検証 第54回日本医学教育学会大会

心肺蘇生法の客観的評価と教育方法に関する研究



シミュレーション教育研究センター (TSERC)
薬学部・薬学教育推進センター 准教授

丸山 桂司 MARUYAMA, Keiji

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.b93a182d77a0f14d.html>

教育

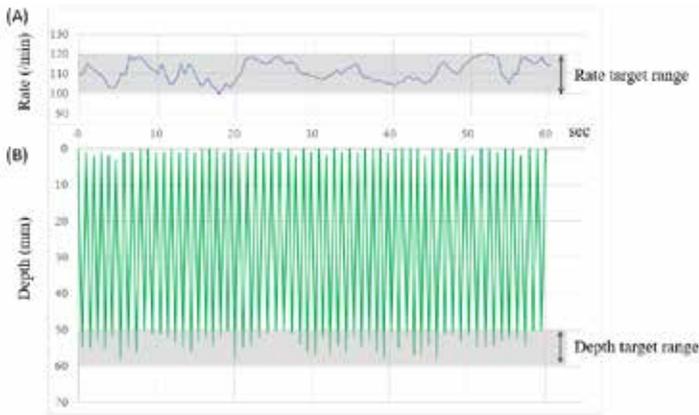
板橋キャンパス

キーワード：シミュレーション医療教育、ブレンド型学習、胸骨圧迫評価

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

医療従事者を目指す学生にとって、一次救命処置の技術を身につけることは必要不可欠である。胸骨圧迫の質は傷病者の予後に深く関わっており、質の高い技術を修得することが重要となる。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、従来のインストラクター主体の対面実習の実施が困難となった。そこで、我々はeラーニングと対面実習を組み合わせたブレンド型学習法の開発を試みている。学生の胸骨圧迫データを従来の方法とブレンド型学習法で比較し、短い対面実習で最も効果の高いブレンド型学習法の構築に取り組んでいる。



胸骨圧迫のテンポ(A)と深さ(B)の目標値

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究で得られたデータを解析し、従来の方法と同等以上の学習効果を得られるブレンド型学習法を構築すれば、医療系大学の学生だけでなく、市民や医療従事者を対象とした一次救命処置講習の構築にも応用できる。また、医療従事者の院内講習や COVID-19 等の感染拡大下など、限られた時間の中で実施しなければならない場合でも、効率的で高い学修効果が得られる方法を構築・提供できる可能性がある。

知的財産・論文・学会発表など

1. 丸山桂司ほか, YAKUGAKU ZASSHI 140, 819-825, 2020.
2. 丸山桂司, 都薬雑誌 42, 12-17, 2020.
3. 丸山桂司ほか, 蘇生 39, 1-5, 2020.

インストラクショナルデザインと ICT による 教育・学習支援、教育学習支援システム開発等



ラーニングテクノロジー開発室 助教

宮崎 誠

MIYAZAKI, Makoto

URL : <https://researchmap.jp/miyazakima>

教育

宇都宮キャンパス

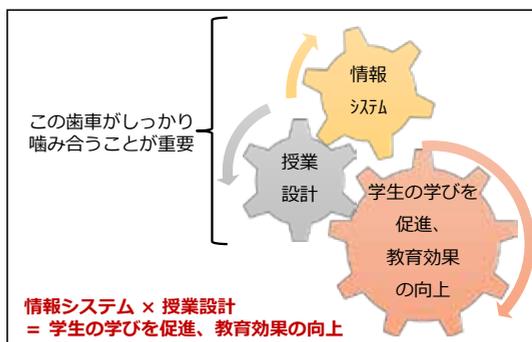
キーワード：e ポートフォリオ、e ラーニング、コンピテンシー、ルーブリック

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

インストラクショナルデザインと ICT 技術を活用して学習効果の高い教材や教育・学習情報システムの開発、また、それらを活用した教育実践研究を進めています。インストラクショナルデザインとは、教育の効果・効率・魅力を高めるための体系的なアプローチやモデルによる方法論です。

長年、初等中等教育だけでなく、大学等の高等教育においても教室での一斉授業が当たり前でしたが、現在では、個人が所有する PC やスマートフォン等のインターネットに繋がった情報端末を活用して教育を個別最適化できるようになってきました。教育・学習の道具が変われば、教育・学習の方法も変わるはずですが、私の研究では、学習者を中心とした学びに注目して、e ポートフォリオやルーブリックを活用したシステム開発研究等を行っています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

文部科学省科研費の獲得を通じて、大学だけでなく、地方自治体や看護協会への情報システムおよび e ラーニングの導入、企業と共同で新製品の PoC を実施する等、行ってきました。OSS を用いたシステム開発や教育情報システムの国際標準技術についても精通しており、大学研究者や企業技術担当者向けにシステム開発に関するワークショップ講師の経験も複数あります。

社会的にもリスキリングに注目がされているように、AI やデータサイエンス等の科学技術の急速な進展に伴う社会構造の変化に対応していくためには、社会人も学び続けることが重要と言えるでしょう。インターネット接続や PC ・スマホの普及、またコロナ禍によって様々なモノやコトが対面からオンラインへという潮流もあり、e ラーニングによる研修の実施も一般的になりました。しかし、e ラーニングによる研修を効果的に実施するにはどうしたらよいでしょうか。私の研究では、インストラクショナルデザインによる研修設計や修得目標に応じた ICT による学習活動を組み合わせることで、教育効果の向上を目指しています。

知的財産・論文・学会発表など

- 論文** [1] [Miyazaki, M.](#), Watanabe, H., Masaka, M. and Takai, K., Developing a Generic Skill Assessment System Using Rubric and Checklists, Proceedings of The 29th International Conference on Computers in Education (ICCE2021), 191-200 (2021)
- [2] 宮崎 誠, 喜多 敏博, 小山田 誠, 根本 淳子, 中野 裕司, 鈴木 克明, コンピテンシーに基づくカリキュラムに対応した e ポートフォリオシステムの開発, 情報処理学会, 情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ (TCE)」, 2 (2), 66-75 (2016)
- 書籍** [3] 石川有紀, 宮崎 誠, はじめての Canvas LMS : 世界標準オンライン学習システムの使い方, 海文堂出版, (2021)
- [4] 宮崎 誠, 梶田 将司, 大学における e ラーニング活用実践集 : 大学における学習支援への挑戦 2 (6-1 Sakai コミュニティにおける e ポートフォリオ), ナカニシヤ出版, (2016)

教育研究の実践的アプローチ



先端総合研究機構・次世代教育研究部門 特任教授
帝京大学中学校・高等学校 校長

市川 伸一 ICHIKAWA, Shin'ichi

URL : <https://www.p.u-tokyo.ac.jp/lab/ichikawa/>

教育

板橋キャンパス

キーワード：教育心理学、教育実践、学習法指導、授業研究、ICT 活用

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

認知心理学の基礎研究を経て、この30年ほどの中心テーマは、教育心理学を基盤にした学習支援や授業研究。2001年より、中央教育審議会教育課程部会委員として学習指導要領の改訂や教育施策の策定に関わる。基本的な研究方法としては、研究者自らが児童生徒に対する教育実践を行いながら教育改善を提案する「実践的アプローチ」。

1989年に、教科学習に悩みをもつ児童生徒への学習相談室を大学に開設し、「認知カウンセリング」という実践的研究活動を始めた。その知見や経験から、算数・数学の学力診断テストCOMPASSの開発、学習方法の改善を図るための「学習法講座」の実施、教授と活動のバランスに配慮しつつ意味理解やメタ認知を促す授業設計論としての「教えて考えさせる授業（OKJ）」の研究・研修などの活動を最近行っている。

これからのテーマとして、小学校から大学まで、さまざまな教科の中でのプレゼン活動の効果的な導入と指導方法の開発。インプットとアウトプットの学習活動が相互に影響しながら、理解、思考、表現が高まるような授業を考えていきたい。



「教えて考えさせる授業」の様子



説明文読解のあとのプレゼン活動

教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

教育実践に関わるテーマで、学校、自治体、企業などと連携しながら研究を進めていきたいと考えています。フィールドの確保や、システム開発、データ分析については、連携協力が不可欠です。とくに、最近では文部科学省のGIGAスクール構想によって学校のハードウェア環境が整いつつある中、子どもにとっても使いやすいソフトや有効なICT利活用方法の実践的検討に関心があります。

知的財産・論文・学会発表など

- 市川伸一 『勉強法の科学—心理学から学習を探る—』、岩波書店、2013。
- 市川伸一（編著）『教育心理学の実践的アプローチ—実践しつつ教育を創出する—』、東京大学出版会、2019。
- 市川伸一 『「教えて考えさせる授業」を創る アドバンス編—「主体的・対話的で深い学び」のための授業設計—』、図書文化、2020。

日本語知識を活用した 英語指導法の開発と効果検証



先端総合研究機構・次世代教育研究部門 特任助教
木澤 利英子 KIZAWA, Rieko

教育

板橋キャンパス

キーワード：教育心理学、英語リテラシースキル、指導法開発、動機づけ

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

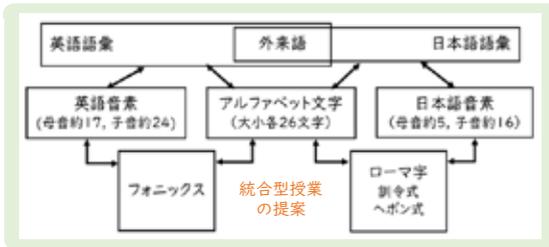
研究の概要

2020 年より小学校高学年で外国語が教科となり、読み書きも含めた指導が始まりました。同時に、国語で扱うローマ字や、タイピングの際のキーボード操作、更に日常生活で目にする看板等、児童は英語学習以外でも様々な機会にアルファベットと出会います。しかし、英語とローマ字では、音素の種類や文字との対応規則、音を捉える単位が異なることを理解している児童は少なく、両者を混同してしまうことで、発音や綴りに誤りが生じることが分かってきました。そこで、私はこれまで、英語の文字と音の対応を明示的に指導することの効果について、実験に加え、実際の教育現場での実践や調査を通して検証してきました。結果、こうした指導は、リテラシースキルの向上のみならず、児童生徒の動機づけや効力感の向上にも寄与することが示されています。

	日本語	英語
音の単位	ku / ra / su モーラ (拍)	class 音節 cl / ass オンセットライム c / l / a / ss 音素



現在は、これまでの研究を拡張し、単に英語の音声の特徴を指導するだけでなく、日本語の知識（ローマ字や外来語）を積極的に活用し、日本語と英語双方に対する理解を深められる指導法について開発を進めています。今後は、教材開発および効果検証を行い、小中学校で実践可能かつ効果的な統合型授業を提案することを目指します。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

1980年代以降日本では、文法訳読式への批判から、コミュニケーション型アプローチに基づく会話中心主義の英語教育が実践されてきました。しかし、こうした母語排除ともいえる教育の効果は示されておらず、むしろ近年では、学習者の既有知識を活かした指導に対する期待が高まっています。同時に、小中学校での英語教育が著しい変化を遂げる中で、同じアルファベットを扱うローマ字教育（国語科）との連携については議論が乏しく、現場の混乱も見られます。共に「ことば」を扱う両教科が、相互に理解を深め合う指導が開発されること、それも学校の先生方が実践可能な形で提案されることが必要です。今後もこれまで同様、小中学校での実践を通して、効果の検証を進めていきたいと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- ・木澤利英子・篠ヶ谷圭太「読み書き能力の素地を育む試み」, 日本児童英語教育学会研究紀要, 40, 215-23, 2021.
- ・木澤利英子「シンセティック・フォニックス指導とその効果 -児童の非単語反復及びデコーディング力に着目して-」, KATE Journal, 32, 71-84, 2018.
- ・木澤利英子「英語音声指導の明示性が中学生の英語学習に及ぼす影響 -学習者の認識・学習方略・効力感・意欲に着目して-」, KATE Journal, 30, 127-138, 2016.

AI時代のFake News 研究と認知バイアス理解に基づく個別化データサイエンス教育の提案



先端総合研究機構・AI活用部門 教授

城戸 隆

KIDO, Takashi

教育

URL : https://www.jst.go.jp/presto/human/researcher/2ki_04.html

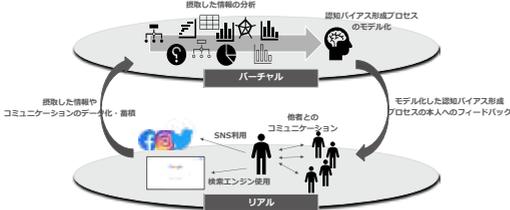
板橋キャンパス

キーワード：人工知能、Fake News、認知バイアス、データサイエンス教育

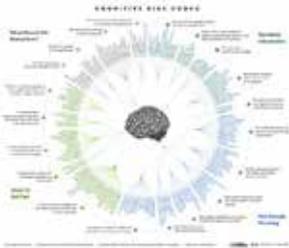
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

- ① AIと人：未来の情報環境は人にどう影響を与えるか？ ③ これからの時代にあるべきデータサイエンス教育とは？



② 認知バイアスを理解する



ディストピア

- AIが暴走し始める
- AIがAIの考え方を有目的に伝播
- AIが感情を伝達し始める
- AIが感情を伝達し始める
- AIが感情を伝達し始める

ユートピア

- AIがAIの考え方を伝達
- AIが感情を伝達し始める
- AIが感情を伝達し始める
- AIが感情を伝達し始める
- AIが感情を伝達し始める

- [1] AIや新技術の基本原則を学ぶ
- [2] AIは原理的に何ができ、何ができないかを知る-ディスカッションする
- [3] 「望ましい未来」の「誰にとって？」を深く考える
- [4] 新技術によって「望ましい未来」を創造できたり、失敗した事例を示す
- [5] 情報を正しく分析することで「望ましい未来」の解像度が上がることを教える
- [6] 具体的なデータ分析にはどんなものがあり、どんなときに使うかを教える

研究の狙い

AIや新技術による望ましい未来を創造する能力を育てる教育プログラムの開発
 ・候補を約選に入手し、正しく分析し、問題発生・解決を的確に行うことが重要
 ・学生がデータを正しく活用する基礎的な知識・方法を身につけてほしい

教育プログラムの特徴

【教育の相手や学生】 他業種における、専攻は異なれるが、
 ・フレディカシオニクングやデータリテラシー能力の向上
 ・深い込みを深掘し新しい発想がでる能力の向上
 ・データサイエンスプログラムでAIやデータサイエンスを教える
 ・データを深く解くことの面白さやAIの活用方法を教える

重点領域

・フェイクニュースに注意する
 ・フェイクニュースを見抜くための知識、見たいものを得てほしい
 ・フェイクニュースの活用、問題点を洗い出すことへの活用方法を教える

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

機械学習によるパーソナライゼーション技術やSNSなどの情報環境が人間の認知バイアスに与える影響を理解し、フェイクニュース時代のメディアリテラシーと個別化データサイエンス教育を提案します。(1) パーソナライゼーション技術が人の認知バイアスに与える影響の大きさにどのような個人差(個性)があるのか？ (2) パーソナライゼーション技術が長期的に人間の認知バイアスに与える影響はどの程度なのか？ (3) 間違っているかも知れない思い込みに気づくには、何に留意すべきか？「AIと人」の未来を洞察する技術です。

知的財産・論文・学会発表など

- [1] Takashi Kido, Keiki Takadama, The Challenges for Fairness and Well-being -How Fair is Fair! Achieving Well-being AI-, AAAI Spring symposium 2022, How Fair is Fair? Achieving Wellbeing AI, Stanford, CA, March 21-23, 2022. <http://ceur-ws.org/Vol-3276>
- [2] 丸山宏, 城戸隆, 機械学習工学へのいざない, 人工知能学会誌, 33巻2号, 特集「AIとデータ-データに基づく意思決定と社会イノベーション創出」(城戸隆, 早矢仕 晃彰編集) (2018年3月), pp124 - pp. 131

教育

認知プロセスによる授業分析



先端総合研究機構 副機構長・社会連携部門
産学連携推進センター センター長・特任教授

中西 穂高 NAKANISHI, Hodaka

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.137b78c112cdf1d0.html>

教育

板橋キャンパス

キーワード：認知プロセス、ブルーム、タキソノミー、教育目標

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

教育心理学者のブルーム他は、1956年に教育目標を分類するという意味のタキソノミーを、教育機関間で試験問題の交換を可能にするための統一的な枠組みとして開発しました。その枠組みはブルームの『教育目標のタキソノミー（＝分類）』と呼ばれ、アメリカ、アジア、および日本のテストデザインやカリキュラム開発、教育目標の設定、教育評価に大きな影響を与えています。

ブルームの弟子である Anderson 他（2001）はブルームの枠組みを発展させ、『ブルームの教育目標のタキソノミーの改訂版：学ぶこと、教えること、評価することについてのタキソノミー』を出版しました。この『改訂版』の特徴は、オリジナルの認知プロセス領域（行）に知識次元（列）を加えた 2次元のタキソノミー・テーブル（表 1）を新たに提案し、タキソノミーの用途を教育目標の分類から授業プロセス全体の評価に広げたとあります。具体的には、授業の教育目標の内容を、そこに名詞の形で記載された学ぶべき知識と、動詞の形で記載された授業における行動（認知プロセス）に分解し、タキソノミー・テーブルに当てはめていきます。同様のプロセスを、授業活動、評価にも行い、その一貫性を見ていきます。こうして授業を可視化することで、教師は自分の授業を振り返る新たな視点を得ます。

現在進めている研究は、Anderson 他（『改訂版』）の本来の意図を踏まえた翻訳を行うとともに、具体的な授業を用いた試行をくりかえしながら、認知の観点からの授業のセルフリフレクションツールを開発しようとするものです。

表 1. タキソノミー・テーブルによる教育目標の分類

知識次元	認知プロセス領域					
	1. Remember 記憶する	2. Understand 理解する	3. Apply 応用する	4. Analyze 分析する	5. Evaluate 評価する	6. Create 創造する
A. 事実的知識						
B. 概念的知識						
C. 手続的知識						
D. メタ認知的知識						

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ブルームのタキソノミー、Anderson の改訂版は広く利用されていますが、本来の意図と異なる活用が多いのが現状です。この研究を通じ、教師が自分の授業を可視化することで客観的に振り返り自主的に改善していくための手法を提案していきます。こうして可視化された授業は、具体的な授業改善提案へとつなげていくことが期待されます。

知的財産・論文・学会発表など

- 「学習する、教える、評定するためのタキソノミー」（Anderson 等著）（共訳）、東信堂
- “Do Post-Reading-Questions in EFL / ESL Reading Textbooks Improve Cognitive Skills?”, Chiharu Nakanishi, Kaori Ando, Hodaka Nakanishi & Rie Suzuki, *Asian Journal of Education and e-Learning*, Vol.6, No 2, pp. 33-42. 2018.
- Analyzing Post-Reading Questions from the Viewpoints of Cognitive Skills”, Chiharu Nakanishi, Kaori Ando, Hodaka Nakanishi, Rie Suzuki, *The 2017-The 16th International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government EEE'17, Proceedings*, pp.9-15. 2017.